

年報

2024 年度



東京医療保健大学東が丘看護学部

TOKYO HEALTHCARE UNIVERSITY

Higashigaoka Faculty of Nursing

東京医療保健大学東が丘・立川看護学部（臨床看護学コース）

TOKYO HEALTHCARE UNIVERSITY

Higashigaoka-Tachikawa Faculty of Nursing

(Clinical Nursing Program)

2024 年度 年報

目次

○巻頭言	1
1. 組織図	2
2. 学内行事の概要	3
3. 入試状況	6
4. 教職員名簿	10
5. 委員会活動	12
6. 教育活動	
6-1 学部	16
6-2 大学院	
▶高度実践看護コース	36
▶高度実践助産コース	43
▶高度実践公衆衛生看護コース	50
▶看護科学コース	56
▶博士課程	61

令和 6 年度年報発行を記念して(巻頭言)

2024 度年報が纏まった。今年で開設 14 回目である。年報は、教育・研究・社会貢献に関する教員全員の全力投球の結果・成果である。我が国は少子化に突入し、年々応募者や入学生が少しずつ減っていく傾向を示している。せめて少数精鋭の考えを踏襲したく、優れた能力の持ち主を選び入学させたいとどこの大学も必死で取り組み、年々試験も早まっていく傾向にある。

本学部も総合型選抜の定員を倍にして良い人を早く安心させてあげたいと頑張っている。そして入学前の課題に取り組み、更に力をつけて動機をしっかりと持って頂き、入学して頂く。レベルが上がれば国家試験も楽々という事にならないか。幻想を抱いている。

今年は「文部科学省」からの東が丘看護学部の完成年次を過ぎて設置審の審査を受けた。この間、教員が複数辞めたことについて、教育や研究に支障が出ていないか。教員 3-4 人程度と、学生にも 7-8 人程度個別にインタビューされ確認された。学生は一同に教授、準教授、講師レベルは辞めている人はいないので実際の教育には影響はないときっぱりと回答してくれた。審査官から驚かれたが、此方は学生に模範解答を強制はしていない。なかなか立派に育っているではないか。流石に素晴らしい。将にこれは教育の成果である。

2 点目に、「学内監事監査」も受審した。此方の方が厳しい。今後は定期的に改善報告・経過報告をするようになっている。勤務の仕方、働き方、教育環境は校舎を巡回し指導を受けた。

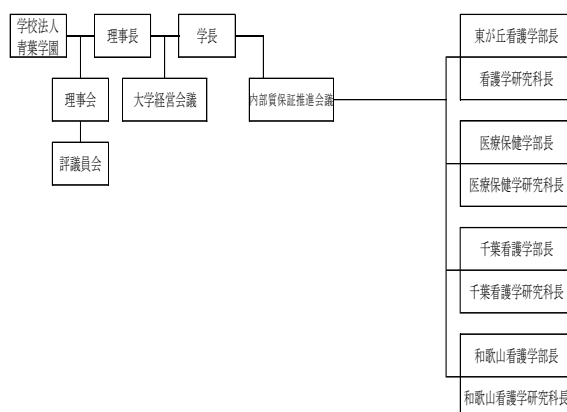
3 点目は、「厚生労働省医政局看護課特定行為研修指定施設としての立ち入り検査」を、2024 年 12 月 25 日クリスマスの日を受審した。此方は学生の気持ちになって指摘事項がすんなりと受け止められず、不満が残った。このような終わり方はとても良くない。翌年早々に直接本省に出かけて詳細な説明と疑問点の解説を頂き、やっと納得して気持ちも納まった。

コロナ禍は過ぎ、コビット-19 は 5 類感染症に落ち着きほっとしたが、学内は兎に角目まぐるしい一年でありました。平静な気持ちで教育が勧められる一年を望みたい。

令和 7 年 5 月 22 日

東が丘看護学部 山西文子

1. 組織図

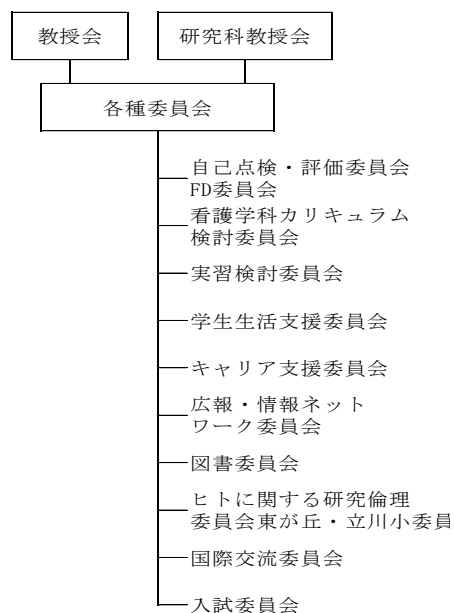


※大学経営会議：年 5 回開催

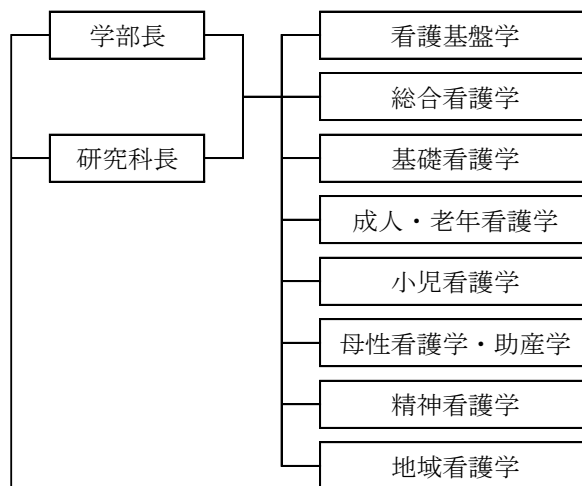
※理事会・評議員会：年 3 回同時開催

※学部長等会議：年 1 1 回開催

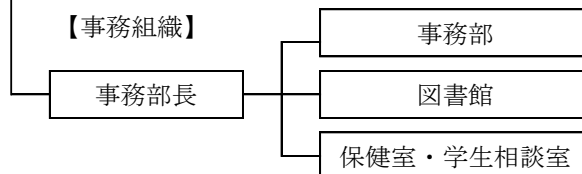
東が丘看護学部の運営組織



【教員組織】



【事務組織】



2. 学内行事の概要

2-1. 学年暦

【 前 期 】

4月

- 1日 学内オリエンテーション（1～5日）、
新入生ガイダンス
- 3日 入学式、在校生・健康診断
- 8日 前期セメスター授業開始
- 26日 新入生合同研修
- 30日 コンタクトグループミーティング

5月

- 7日 在宅看護学実習（～6/28）
- 17日 スポーツ大会
- 27日 看護学過程展開実習（～6/7）

6月

- 9日 オープンキャンパス
- 24日 看護学体験実習（～6/28）

7月

- 1日 スカラシップ給付授与式
- 6日 大学院来学イベント/個別相談会
- 16日 看護学統合実習（～7/26）
- 28日 オープンキャンパス

8月

- 3日 大学院来学イベント/個別相談会

9月

- 2日 実習指導者講習会（～12/3）
- 7日 大学院前期入試
- 16日 入試説明会（総合型・学校推薦型）
- 24日 各論実習（R7.2/7まで）
- 28日 医愛祭（五反田にて29日まで）

【 後 期 】

10月

- 13日 総合型選抜入試
- 24日 東京医療センター災害訓練
- 26日 大学院来学イベント/個別相談会

11月

- 8日 NHO・NC 就職説明会
- 3日 学校推薦選抜入試説明会
- 17日 学校推薦型選抜入試
- 23日 公開講座（明石先生）
- 25日 大学院過去問閲覧会（～28）
- 30日 NP フォーラム（～12/1）

12月

- 2日 慢性期看護学実習（～12/20）
- 14日 大学院後期入試

1月

- 8日 コンタクトグループミーティング
- 8日 東京医療センター就職説明会
- 24日 一般選抜 A 日程入試
- 25日 一般選抜 B 日程入試
- 30日 国家試験壮行会

2月

- 9日 一般選抜 C 日程入試
- 16日 看護師国家試験
- 23日 一般選抜特別日程入試
- 25日 日常生活援助展開実習（～R7/3/3）
- 25日 面接対策講座

3月

- 12日 学位記授与式・修了式
- 22日 オープンキャンパス

2－2. オープンキャンパス

6月9日(日)、7月28日(日)にオープンキャンパスを実施した。参加者は6月102名、7月145名となった。

概要は学部・大学院各コース説明、講義・演習の模擬授業体験、キャンパス見学ツアー、教員・学生・入試広報部職員との個別相談である。7月28日回においては東京医療センターの協力を得て、病院見学会を実施した。3月23日(日)には令和8年度入学予定の生徒に向けて実施した。

2－3. 東が丘看護学部入試説明会

本年度の入試説明会は、総合型選抜・学校推薦型選抜受験者を主たる対象として、9月16日(日)に実施し、65名が来校した。

2－4. 個別見学会・個別相談会

学部個別見学会を11月27日(水)、12月10日(火)に実施した。

また、大学院の個別相談会を7月6日(日)、10月26日(日)に実施した。

2－5. FD 講座等の開催（公開講座を含む）

① 6.20. (木) 第1回「新着任教員研修」

カリキュラム検討委員会、実習検討委員会、学生支援委員会の説明
講 師: 各委員会委員長

② 8.8. (木) 第2回

テーマ: 「JANPU 看護学教育の倫理綱領の改訂から見えること」
講 師: 手島 恵 教授 (副学長、看護学研究科長)

③ 9.2. (月) 第3回

テーマ: 「明日からできる、研究での生成 AI 活用
～ファクトチェックとプロンプトカスタム術の要諦～」
講 師: 田中 善将 (スクールエージェント株式会社)

④ 9.18. (水) 第4回

テーマ: 「コミュニケーションの視点から授業を考える」
講 師: 大島 武 (東京工芸大学 芸術学部 教授)

⑤ 11.23. (祝) 目黒区連携 公開講座

テーマ:「放射線を正しく怖がる」

講 師: 明石 眞言 教授

⑥ 2.20 (木) 第 5 回

テーマ:「DX システムの活用事例共有」

講 師: 松本 和史 准教授、佐藤 いずみ 准教授、原口 昌宏 講師、森山 潤 助教

2-6. 学友会活動

1) スポーツ大会

学友会の全学行事である、スポーツ大会が5月17日(金)に、駒沢オリンピック公園総合運動場体育館で終日開催された。東が丘 26 名を含む、五反田、世田谷、立川、千葉の各キャンパスからの学生 231 名が参加した。

2) 医愛祭 (大学祭)

医愛祭を9月28日(土)、29日(日)、五反田キャンパスで開催した。今年のテーマは参加してくれる学生関わらず医愛祭を通してできた人との繋がりが今後途切れることなく続いてほしいという意味を込めた「環」。来場者は両日で 736 名であった。

3. 入試状況

3-1. 令和7年度入学者選抜状況(選抜試験は令和6年度に実施)

概 要

東が丘看護学部看護学科、大学院看護学研究科の入学者選抜の概略は以下のとおりである。

3-1-1. 東が丘看護学部看護学科

入試種別	志願者数	合格者数	入学者数	定員	定員充足率
総合型	54名(40名)	28名(18名)	28名(18名)	20名(8名)	140%(225%)
推薦	26名(24名)	24名(24名)	24名(24名)	28名(38名)	86%(63%)
一般	438名(449名)	261名(191名)	63名(59名)	52名(54名)	121%(109%)
計	518名(513名)	313名(233名)	115名(101名)	100名(100名)	115%(101%)

※カッコ内の数字は前年実績

○ 総合型選抜

(1) 対象

本学を第一志望(専願)とし、下記の入学資格に該当する者

1. 令和7年3月に高等学校(中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ。)を卒業見込みで、3年次1学期または3年次前期までの調査書を提出できる者

(2) 選抜方法

自己推薦書・調査書・面接を総合的に評価し選抜

○ 学校推薦型選抜(指定校・公募制)

(1) 対象

本学を第一志望(専願)とし、下記の入学資格に該当する者

1. 令和7年3月に高等学校(中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ。)を卒業見込みで、高等学校長の推薦がある者
2. 高等学校における全体の評定平均値が3.5以上の者

(2) 選抜方法

小論文・調査書・面接を総合的に評価し選抜

○ 一般入試

1) 一般選抜入学試験 A・B・C・特別日程

(1) 試験科目

A日程 必須科目 英語(100点) 選択科目 数学Ⅰ・数学A、生物基礎・生物、
化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎から1科目選択(各100点)

B日程 必須科目 英語(100点) 選択科目 国語(近現代文のみ)、数学Ⅰ・
数学A、生物基礎・生物、化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎から
1科目選択(各100点)

C日程 必須科目 英語(100点) 選択科目 国語(近現代文のみ)、数学Ⅰ・
数学A、生物基礎・生物、化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎から
2科目選択(各100点)

特別日程 英語(100点)、国語(100点)、面接(50点)、調査書(15点)

2) 大学入学共通テスト利用入学試験

(1) 試験科目

必須科目 英語【リスニングを含む】(200点)

選択科目 国語【近代以降の文章】、数学Ⅰ・数学A、生物、化学、
生物基礎・化学基礎から2科目利用(3科目以上受験している場合は
高得点の2科目を採用(各100点)
ただし、理科を2科目以上選択している場合は、「生物」「化学」の
組合せのみ採用となります。

3-1-2. 大学院看護学研究科

- ・前期 9 月 7 日(土)及び後期 12 月 14 日(土)に実施しました看護学研究科の入学試験結果は、次のとおりです。

	定員	出願者数	合格者数	入学者数	定員充足率
修士課程	40名	88名	50名	44名	110%
博士課程	2名	1名	1名	1名	50%
看護学研究科 合計	42名	89名	51名	45名	107%

※いずれの値も前期及び後期の合算値。

○ 選抜方法

[修士課程]

筆記試験、面接及び出願書類を総合して行います。

[高度実践看護コース]

(1)筆記試験

看護学に関する総合的な基礎知識を問います。(120 分)

必修問題 3 問

(2)面接試験 1 人 15 分程度

[高度実践助産コース]

①助産師免許取得コース

(1)筆記試験

看護学の基礎知識と母性看護学の知識を問います。(120 分)

必修問題 3 問

(2)面接試験 1 人 15 分程度

②助産師プログラムコース

(1)筆記試験

助産学に関する知識と論理的思考力(小論文)を問います。(120 分)

必修問題 3 問(うち 1 問は小論文)

(2)面接試験 1 人 15 分程度

〔高度実践公衆衛生看護コース〕

(1)筆記試験

看護学に関する総合的な基礎知識を問います。(120 分)

必修問題 3 問 (うち 1 問は小論文)

(2)面接試験 1 人 15 分程度

〔看護科学コース〕

①看護教育・研究者プログラム

(1)筆記試験

保健・医療分野に関する知識と論理的思考力を問います。

また、一部の問題は、英語の能力を問います。(120 分)

〔辞書(電子辞書は除く) 1 冊を持ち込むことができます。〕

(2)面接試験 1 人 15 分程度

②看護管理者プログラム

(1) 事前面談

指導を希望する研究分野の教員と事前面談のうえ入学後の研究・教育につき了解を得る。

(2)面接試験 1 人 15 分程度

〔博士課程〕

(1)筆記試験

保健・医療分野に関する知識と英語の能力を問います。(60 分)

〔辞書(電子辞書は除く) 1 冊を持ち込むことができます。〕

(2)面接試験 1 人 15 分程度

4. 教職員名簿（令和 6. 4. 1 現在）

専任教員	担当領域	氏名	職名	採用等年次（和歴）
	大学院看護学研究科長	手島 恵	副学長/教授	R6. 4. 1 採用
	東が丘看護学部長	山西 文子	副学長/教授	H25. 4. 1 採用
	看護基盤学	明石 眞言	教授	R2. 8. 1 採用
		小野 孝二	教授	H25. 4. 1 採用
		小宇田 智子	准教授	H22. 4. 1 採用
		岸 達也	助教	R4. 4. 1 採用
	総合看護学	山西 文子	教授	H25. 4. 1 採用
		浦中 桂一	准教授	H29. 4. 1 採用
		忠 雅之	講師	R3. 4. 1 採用
		関口 奈律子	助教	R5. 4. 1 採用
	基礎看護学	松山 友子	教授	H22. 4. 1 採用
		上國料 美香	教授	R6. 4. 1 採用
		高橋 智子	准教授	H25. 4. 1 採用
		吉良 理絵	講師	R5. 4. 1 採用
		ハーネド 明香	助教	R2. 4. 1 採用
		吉末 雅哉	助教	R6. 1. 1 採用
		吉田 貴恵子	助教	R6. 4. 1 採用
	成人・老年看護学	竹内 朋子	教授	H25. 4. 1 採用
		松本 和史	准教授	H27. 4. 1 採用
		新山 真奈美	准教授	R4. 4. 1 採用
		原口 昌宏	講師	H29. 4. 1 採用
		高田 由紀子	講師	R4. 4. 1 採用
		佐藤 琴美	助教	R2. 9. 1 採用
	小児看護学	中島 美津子	教授	H28. 4. 1 採用
		玄 順烈	准教授	H26. 4. 1 採用
		永井 史織	助教	R4. 10. 1 採用
	母性看護学・助産学	渡邊 香	教授	R6. 4. 1 採用
		朝澤 恭子	准教授	H26. 4. 1 採用
		佐藤 いずみ	准教授	R5. 4. 1 採用
		小嶋 奈都子	講師	H22. 4. 1 採用
		戸津 有美子	講師	R6. 4. 1 採用
		鬼澤 宏美	助教	R2. 4. 1 採用

精神看護学	浅井	百合絵	助教	R4. 4. 1	採用
	勝山	なおみ	助教	R5. 4. 1	採用
	田中	留伊	教授	H22. 4. 1	採用
	中村	裕美	講師	H22. 4. 1	採用
	菅原	裕美	助教	H31. 4. 1	採用
地域看護学	明石	眞言	教授	R4. 4. 1	採用
	金子	あけみ	准教授	H22. 4. 1	採用
	駒田	真由子	講師	H29. 4. 1	採用
	森山	潤	助教	R5. 4. 1	採用
	増田	理恵	助教	R6. 4. 1	採用

事務職員

役職	氏名
部長	眞弓 彰久
主任	齋藤 容子
主任(大学院担当)	鎌田 りみ
職員	岡田 友理
職員	小宮 咲紀
職員	大久保 司
職員	津野 朋子
職員	佐藤 光伸
図書館司書	加藤 亜樹
図書館司書	遠藤 一恵
図書館司書	長岡 亮子
図書館司書	大塚 久美子
学生相談	原田 直美
保健室	戸谷 益子

5. 委員会活動

自己点検・評価委員会

構成員

朝澤恭子（委員長）、新山真奈美（副委員長）、中島美津子、吉良理恵、岸達也、関口奈津子、森山潤、眞弓彰久（事務部）

活動内容

令和6年度自己点検・評価報告書の作成を行った。また、令和5年度の年報として東が丘看護学部における委員会活動、教育活動、業績等に関して取りまとめ、本学ウェブサイトへアップロードを行った。

FD委員会

構成員

新山真奈美（FD委員長）、中島美津子（副委員長）、朝澤恭子、吉良理恵、岸達也、関口奈津子、森山潤、眞弓彰久（事務部）

活動内容

2024年度は外部講師を招いたFD研修会を2回、新着任教員研修1回、学部内講師による研修を2回、合計5回/年を企画・運営した。また、全学や各委員会で企画された研修について、FD委員会からも参加推進およびFDマップ利活用の案内を行った。2024度FDマップ対応表を活用しやすいように今年度より電子化し、自身の達成率を把握できるように新たに開始した。年度末のFDマップ利活用率アンケート調査結果においては、教育80%、研究90%、社会貢献80%と、学内FD委員会企画以外の研修も推進し、FDマップを利活用することで、研修の充実性が高まった。さらに電子化したFDマップの利活用に関する点においても、ポジティブな意見が多いことから、効果的であったことから今後も推進していく。

東が丘看護学部カリキュラム検討委員会

構成員

竹内朋子（委員長）、明石眞言（副委員長）、山西文子（学部長）、小野孝二、田中留伊、中島美津子、松山友子、渡邊香、眞弓彰久（事務部長）、齋藤容子（事務部）

活動内容

カリキュラム改正から3年目となり、旧カリキュラムから順調に移行している。また、全学の授業運営指針に沿って学修者本位の授業を運営するとともに、学業不振の学生に対しても早期から手厚い学習支援を徹底するシステムを整備したことにより、前年度よりも進級率が上昇した。新カリキュラムの完成年次を迎える次年度も、学部の教育体制のさらなる充実を目指して活動する予定である。

実習検討委員会

構成員

浦中 桂一(委員長)、佐藤 いずみ(副委員長)、玄 順烈、吉良 理絵、駒田 真由子、高田 由紀子、中村 裕美、戸津 有美子、岸 達也、吉末 雅哉、岡田 友理(事務部)

活動内容

本委員会は、東が丘看護学部の看護学実習教育の質向上を目指して活動している。本年度は、看護学実習年間計画の立案、臨地実習要項の作成、各学年への実習ガイダンス、看護技術経験表の活用方法の周知、インシデント報告の集計と分析、実習施設対象の看護学実習説明会の開催、独立行政法人国立病院機構 東京医療センター看護部との看護学実習連携会議の共催等を実施した。

学生生活支援委員会

構成員

田中留伊(委員長)、玄順烈(副委員長)、小宇田智子、高橋智子、小嶋奈都子、駒田真由子、高田由紀子、忠雅之、原口昌宏、鬼澤宏美、吉末雅哉、戸谷益子、眞弓彰久、岡田友里

活動内容

学生の相談(学習や進路に関すること等)や学業継続(休学・退学等)・健康状態の把握に関する事項について対応した。主な活動として、1年次生の合同研修は4月に国立オリンピック記念青少年総合センターで実施された。コンタクトグループミーティングは前期・後期ともに対面で開催した。スポーツ大会は5月に駒沢公園屋内競技場にて実施された。大学祭(医愛祭)は9月に五反田キャンパスにて実施された。定例となっている東京医療センターと協同イベントは七夕飾りつけのみ実施された。ボランティア活動の一環として、10月に開催された「第48回目黒区民まつり」に学生ボランティアを14名および教員1名を派遣した。

キャリア支援委員会

構成員

松本和史(委員長)、上國料美香(副委員長)、玄順烈、小宇田智子、高橋智子、小嶋奈都子、忠雅之、中村裕美、佐藤琴美、永井史織、森山潤、眞弓彰久、齋藤容子

活動内容

国家試験対策として、全学年に国試ガイダンス、業者模擬試験(4年生8回、1-3年生1-2回)を実施した。4年生に対し、後期に教員による講習(17回)と業者による講習を開催した他、ゼミ単位で個別の学生への支援を行った。就職支援活動として、就職ガイダンス、外部講師を招いた就職支援講座(面接対策講座、履歴書講座、小論文対策講座等)、卒業生との懇談会、東京医療センター就職説明会を実施した。

図書委員会

構成員

高橋智子（委員長）、朝澤恭子（副委員長）、駒田真由子、高田由紀子、佐藤琴美、勝山なおみ、岸達也、図書館 町田玲彦、加藤亜樹、事務部 眞弓彰久

活動内容

学内外で利用できる国内外の電子ジャーナル・書籍等のサービス等を検討し、厳選した。書籍購入では、定期ならびに随時にリクエストを受け付け、学生の学習や教員の教育活動に活かせるよう努めた。目黒区との地域連携では、「飲酒と健康」をテーマに選書、コラボ展示、ブックリストの配布を行い、学生の関心ならびに連携を促進した。東が丘図書館の利用実績および各種データベースへのアクセス状況についてとりまとめた。

広報・情報ネットワーク委員会

構成員

小野孝二（委員長）、中島美津子（副委員長）、佐藤いずみ、高田由紀子、増田理恵、関口奈津子、浅井百合絵、吉田貴恵子、鎌田りみ(事務)

活動内容

1) 大学学部案内 令和7年度の本学の首都圏版パンフレットの作成に携わった。

2) 広報イベント

- (1) 春のオープンキャンパス（来学開催）
- (2) 夏のオープンキャンパス（来学開催）
- (3) Web オープンキャンパス
- (4) 入試説明会（来学開催、Web 開催）
- (5) 高校教員対象大学説明会（来学開催）
- (6) 一般選抜科目対策講座（Web 開催）
- (7) 入試相談会（来学開催）

3) その他

- (1) 学報「こころ」を2回発行し、教育活動や学生支援のPR活動を行った。
- (2) 出張講義

東京都立忍岡高等学校、目白研心高等学校、玉川聖学院高等部

(3) 進路セミナー

東京都立正則高等学校

ヒトに関する研究倫理委員会東が丘・立川小委員会

構成員

手島 恵（委員長）、小宇田智子（副委員長）、小野孝二、上國料美香、久保恭子、竹内朋子、渡邊香、西山健治郎（外部委員）、長谷川一恵（外部委員）

活動内容

東が丘と立川キャンパスにおける卒業研究、課題研究、特別研究、教員研究のうち、ヒトを対象とする研究課題につき、計 85 題の審査を行った。また、研究計画の申請書類内容の検討を行い周知した。

入試委員会

構成員

非公開

活動内容

入学試験に係る事項について審議し、試験の円滑な実施を図った。学部入試では、総合型、学校推薦型、一般選抜（A、B、C 及び新しい特別日程）さらに大学入学共通テスト利用入学試験に従事した。大学院看護学研究科の入試では、修士課程として高度実践看護、高度実践助産、高度実践公衆衛生、看護科学の一般入試が、前・後期に分けて行われた。また高度実践助産及び公衆衛生コースに関しては、東が丘看護学部特別選抜も行われた。博士課程に関しては、一般入試が行われた。

国際交流委員会

構成員

朝澤恭子（委員長）、金子あけみ（副委員長）、戸津有美子、原口昌宏、勝山なおみ、岸達也、菅原裕美、吉田貴恵子

活動内容

9 月にオーストラリア：グリフィス大学オンライン研修、3 月にハワイ大学アウトリーチ部門主催 N. I. C. E. プログラムの現地研修が開催された。研修内容の検討、日程調整、参加 PR、申請手続き、事前研修支援、アンケート評価等を実施した。国際講演会として、海外の医療・看護に関するオンライン講演会が 3 回開催され、企画・運営を担当した。

看護学研究科カリキュラム委員会・学生支援委員会

構成員

手島恵、山西文子、明石眞言、上國料美香、竹内朋子、田中留伊、渡邊 香

活動内容

看護学研究科修士課程と博士課程に関する教育計画、実施、評価等に係る質向上のための検討を行った。各コースのカリキュラムや教育・研究に関する取り組みとその評価、単位取得状況等を確認し、研究科教授会への報告及び学籍異動に係る審議等を行った。高度実践看護コース・高度実践助産コース・高度実践公衆衛生看護コース、看護科学コースでは各々 23 名、6 名、2 名、3 名の合計 34 が修了認定された。

6. 教育活動報告

6-1. 東が丘看護学部

【看護基盤学領域】

1. 教育方針

広い視野に立った物の見方を学ぶために人間の生命を自然科学的、倫理的、あるいは社会学的等、多面的な側面より論じることのできる能力を有する看護師の育成を目指す。

2. 科目名

1) 自然科学の基礎 1 年次前期

(1) 担当教員 小宇田智子、小野孝二、岸達也

(2) 教育内容

専門基礎分野、専門分野における高度な専門科目を履修するために必須である生物、化学、物理、数学等に関する基礎的な知識を学習することを目的とした。学生によって各内容の理解度に大きな差があるため、基礎的な内容について、理解しやすいようにイラスト等を利用して資料を作成した。学生の個別の質問にはメールで応じて、全学生が最低限の必要知識を得られるように対応した。次年度も学生間で知識の差があると予想される。そのため、学生には予習および復習を促し、授業で使用するスライドはよりわかりやすいものとなるよう工夫し、高度な専門科目に対応できるような知識の習得を目指す。

2) 解剖生理学Ⅰ 一年次前期

(1) 担当教員 小宇田智子、非常勤講師

(2) 教育内容

看護は人を対象にする専門職であり、対象となる人を看て身体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力も求められる。その際、身体の異常に気がつく力、異常を知る力が必要になる。正常な身体の仕組みと働きが損なわれると異常となることから、身体の異常とは何かを知り、異常に気がつくには正常な身体の仕組みと働きを知っている必要がある。本科目では、人体や人体を構成する器官・臓器について、正常な構造と働きに関する基本的な事項について、資料を用いて視覚的に示すことでイメージしやすいように工夫し、わかりやすく概説した。次年度も、学生には予習および復習を促し、授業で使用するスライドはよりわかりやすいものとなるよう工夫し、高度な専門科目に対応できるような知識の習得を目指す。

3) 解剖生理学Ⅱ 1 年次前期

(1) 小野孝二、非常勤講師

(2) 教育内容

人体の構造とその機能を学科目であり、医療職として最も基礎となる科目であり細胞レベルからの成り立ちと基本構造、様々な機構や形態の理解を通じて健康科学を学ぶ上で必要となる基礎知識を習得する。解剖生理学Ⅱでは、消化器、循環器、呼吸器、血液、腎臓（泌尿器）、内分泌、免疫の7領域の諸機能を理解することを目的とした。次年度は、解剖生理学は臨床においてとても重要であることを認識させ学習する工夫をする。

4) 臨床検査学演習 2年次前期

(1) 担当教員 小野孝二、小宇田智子、岸達也

(2) 教育内容

診断・治療の基礎として活用されている臨床検査の原理を理解し、その意義を学ぶことを目的として演習を実施した。組織学検査、心電図検査、血液検査、尿検査、染色体検査、放射線検査の各項目につき、試料の観察や測定等を通して、その基本原理、解剖生理と病態に関する理解を深めた。次年度も引き続き、各臨床検査演習を通じて臨床に近い形での教育を目指す。

5) 公衆衛生学 2年次後期

(1) 担当教員 小宇田智子、金子あけみ、非常勤講師

(2) 教育内容

公衆衛生学は集団の健康を対象とするものであり、歴史を振り返れば、感染症との戦いが現代公衆衛生学の基礎を築いたといっても過言ではなく、公衆衛生学の必要性は明らかである。本科目では、広い視野を持ち、社会の動きのなかに、公衆衛生学の要素を見出すことができるよう、可能な限り社会の動きと結びつけた講義を行った。次年度は、学生が現実の社会で起きていることを、公衆衛生学の視点で見ることができるような講義を目指す。

6) 看護研究の基礎 3年次前期

(1) 担当教員 小野孝二、竹内朋子、朝澤恭子、小宇田智子

(2) 教育内容

エビデンスに基づく看護に資する看護研究を実施する素地を形成することを目的とした。看護学における研究の意義、研究を開始するための基礎となる情報の集め方から始め、研究手法の分類と進め方、倫理的配慮、研究のまとめ方の一連のプロセスについて講義した。次年度も、より先駆的な看護研究を題材として取り上げ、研究を実施する素地を形成することを目指す。

7) 英語論文のクリティーク 3年次後期

(1) 担当教員 明石眞言 各領域担当教員

(2) 教育内容

英語原著論文の検索法を示し、各領域に関連し、学生が興味のある英語原著論文をした。論文の内容は、各領域における卒業研究に関連のあるものとした。指定された英語論文を精読し、卒業研究グループの中で発表と討論を行った。次年度は、AI による自動翻訳機ではなく、辞書を引きながら論文を読む習慣が求められる各自の研究内容と関わりを明確化し、論文から得られた内容を研究に結び付ける工夫をしたい。

【総合看護学領域】

1. 教育方針

アクティブラーニングの導入科目を積極的に増やし、本学のアクションプランの目標100%達成に向かって領域担当の科目は努力する。学生には自ら考える、考えさせる対応を工夫し、時々共有する。また、出来るだけ現実に近い形で知識の統合、判断の根拠、思考のプロセスを繰り返し、技術の実施、評価というPDCAサイクルを廻せるように支援する。また、チームの一員としてのセルフマネジメントの重要性も再確認する機会であり、臨地実習最後の纏めである。臨床への第一歩がスムーズに踏み出せるように4年間の纏めでもあり、社会への橋渡しの位置づけである。学生には、実習病院の一つの病棟の全ての媒体を用い、必要な情報を主体的に収集し、計画し、実践し、評価していくプロセスを体験し、その重要性・大切さを認識させたい。

2. 科目名

1) 看護政策論（選択科目）4年次前期

(1) 担当教員 山西文子

(2) 教育内容

今年度は看護行政等に関心の高い学生が選択し約87名であり積極的であった。職能団体の副会長からの具体的看護政策企画立案、提言、予算化実施、評価。一人の国会議員による基礎的な知識と実際の政策決定過程に携わった実践、議員立法のプロセスに係る講義を拝聴した。更に後半は現在の社会問題となっている看護問題についてデバート形式で意見を出し合い積極的な参加であった。

2) 看護情報学・統計学演習 2年次前期

(1) 担当教員 浦中桂一、岸達也

(2) 教育内容

統計学の基本的な性質や考え方を理解し、データ分析の統計手法を学ぶことを主な目標とした。質的データや量的データをどのように取り扱うのか、科目開始時に履修生対象のアンケートを行い、演習データを作成した。身近な事象に関するデータにて興味を引き、アクティブラーニング手法を用いて統計ソフトや表計算ソフトの実践演習を行った。今後は統計ソフトの事前準備を促し、事後学修の徹底を図っていく必要がある。

3) フィジカルアセスメント 2年次前期

(1) 担当教員 浦中桂一、忠雅之、岸達也、関口奈津子

(2) 教育内容

解剖生理およびフィジカルイグザミネーション技術について講義したのち、身体的な機能評価のためフィジカルイグザミネーションについて、学生同士でグループ学習を展開した。アクティブラーニングを対面授業にて展開したが、アセスメントや臨床推論の要素をより多く取り入れて症状マネジメントを思考する機会や時間を授業内で設ける必要がある。

4) 災害看護学 2年次前期

(1) 担当教員 金子あけみ、非常勤講師

(2) 教育内容

災害時の医療・看護活動の基盤となる法的根拠や災害対策及び災害各期の救護活動や看護ケアについて説明し、災害のイメージを得るため、DVD等も活用した。また、世界情勢から自然災害だけでなく、CBRN災害を想定した除染、避難についても説明を加えた。本年度も東京医療センターの災害訓練に参画し、トリアージや傷病者やその家族の思いを疑似体験するアクティブラーニングを実施した。次年度も継続的に実施していく。

5) 政策医療論 2年次後期

(1) 担当教員 金子あけみ、非常勤講師

(2) 教育内容

我が国の医療政策並びに国立病院機構が行う政策医療と今後の医療提供体制、地域包括ケアシステムについて解説した。また、看護の専門職化の歴史、看護の質の向上に向けた取り組みについて説明するとともに、医療従事者法としての保健師助産師看護師法の課題や関連団体の政策・事業についても説明した。本年度は、政策について関心を高めることをねらいとして看護政策の提案提言を実施した。次年度も能動的学習を促進する。

6) 看護職とキャリア形成 4年次後期

(1) 担当教員 金子あけみ

(2) 教育内容

看護専門職として成長するプロセスとキャリア形成に関する知識を深めることを目的としている。重要なキーワードとして、生涯発達、キャリア発達、リフレクション、プロフェッショナリズム等を取りあげ、概念的理解を深められるよう事例等を紹介しながら説明した。本年度は、「私のキャリア・プラン」というテーマでグループ討議及び発表会を実施した。次年度も講義内容と教材を精選し、アクティブラーニングの実施に取り組む。

7) 看護管理学 3 年次前期

(1)担当教員 松本和史

(2)教育内容

対象者により良い看護実践を行うために必要な看護マネジメントの基礎知識・技術・態度を学ぶことを目的にした。実際の医療現場での看護マネジメントがイメージしやすいように、講義だけでなく、事例演習やディスカッションを取り入れ、組織のマネジメントや卒業後のキャリア形成を考えるような機会を設けた。次年度も、グループワーク等のアクティブラーニングを取り入れた授業設計を行う。

8) 医療安全学 3 年次前期

(1)担当教員 森山潤

(2)教育内容

医療安全の基本的な考え方や安全性の確保に向けた看護職の役割を理解し、実際に起きた事象を多角的な視点で考察し、安全を阻害する要因やその対処・予防方法の理解を深め基本的な対応方法を学習することを目標とした。実際の医療事故事例をもとに、様々な立場から考えるグループワークを行い、自分事として考える機会を設けた。学生たちも実際の医療現場の安全について具体的にイメージすることができていた。

9) NP 論（選択科目） 4 年次後期

(1) 担当教員 浦中桂一、山西文子

(2) 教育内容

4 年次生が選択し、授業にも積極的に参加した。前半はわが国における NP 教育の実態及び世界各国における NP 教育・役割・活動の実際についての概要を講義し、その後は我が国において大学院 NP コースを修了し現場で活躍している NP、海外の NP の講師に活動の実際を講義頂き、質疑応答アプリにて質問の時間を設けた。今後は講師を適宜変えてプライマリ領域も含め多種多様な NP 活動の実際について触れてもらい、学生のキャリア開発に対する動機づけの機会としていく。

10) 看護学統合実習 4 年次前期

(1) 担当教員 山西文子、浦中桂一、忠雅之、関口奈津子

(2) 教育内容

本実習は、4 年次までの全ての看護学実習の内容や看護マネジメントの学習を統合した実習として位置付けている。実習は学内実習と臨地実習からなり、学内実習では 4 月～7 月にレポート作成・プレゼンテーション、看護技術演習を計画実施し、臨地実習は 6 施設で 7 月～8 月に実施した。来年度は 9 日間の臨地実習期間となる。実習施設が 1 施設増えるため、学生の実習目標達成に向け、実習前の学生の準備状況(知識面、技術面、態度面)及

び臨床側との十分な教員側、受け入れ病棟等の調整が重要である。

11) 卒業研究 4 年次通年

(1) 担当教員 山西文子、浦中桂一

(2) 教育内容

10 名程度のグループごとに、研究テーマを設定し、研究計画の立案から成果発表までの一連のプロセスを学修する。2024 年 11 月に体育館において「卒業研究発表会」を開催し、3 年生も含め全教員参加の下、学会形式で発表が行われた。学生同士の質疑応答も活発に行われていた。発表内容を一部サテライトで中継したが回線の不具合で共有できなかった。今後は PC 環境を改善して円滑な会の運営を行う。各グループのテーマと構成メンバーは以下の通り。

看護基盤学領域

AYA 世代がんサバイバーの妊孕性温存意思決定時における心理状態とニーズに関する文献レビュー

小川 沙紀奈、田島 祈、熊谷 理恵子、佐々木 美奈、鈴木 那菜、高橋 菜々子、中川 和子、林 愛香、藤田 和奏、山内 美代子、山口 優里沙

総合看護学領域

医療用ワゴン走行時に発生する騒音の軽減に関する実験研究

岡田 悠佑、玉地 彩香、大松 春霞、木村 月、楠 ほなみ、鴻巣 優香、鈴木 春花、中村 愛結、中山 美玲、七ツ矢 南、西川 真央

基礎看護学領域

全国の病院における病棟看護師のマスク着用状況とその理由についての実態調査

衛 長韵、松川 智美、大田 彩菜、北川 倫花、宍倉 理結、鈴木 祐香、永松 日女、菱沼 佳世、広瀬 桃香、安永 響

発声時におけるサージカルマスク・N95 マスク・二重マスクの着用が

生理的側面・主観的評価に及ぼす影響

重信 心音、大塚 あゆ、小障子 はるな、齋藤 紬生、白井 綾、白川 凜、野木 美悠、濱本 紗和、原 更紗、藤井 はるか

成人・老年看護学領域

看護師が災害看護に携わる経緯と動機

湯田 美咲、池田 夏鈴、今井 深侑、植田 菜子、城所 麻裕、中村 美穂、野口 真佑花、村上 詩歩、吉田 光里

A 看護大学の女子学生および女性看護師を対象とした心肺蘇生法における胸骨圧迫の質低下の自覚と実際との乖離に関する研究

佐藤 佳穂、吾郷 夏海、小松 真優、菱沼 希望、人見 浩一郎、見沢 真衣、山崎 菜々子、山下 紗貴美、湯原 春菜、渡邊 奏

小児看護学領域

中学生の呼称使用に関する実態調査

太田 実佑、大谷 典子、川樹 孝乃、小菅 琴葉、佐藤 千里花、志田 楓華、高橋 香帆、長尾 佳音、二宮 綾音、米川 千尋

母性看護学領域

看護職が認識する緊急避妊薬の処方を受ける女性へ支援：質的研究

磯川 日和、金原 碧祐、木村 花音、佐藤 南中、崔 允娜、土田 真琴、根米 杏珠、根本 京佳、平田 明日香、藤島 彩花

親の抑うつ状態と乳幼児の電子メディア視聴の関連

前田 妃貴、石倉 れいな、市川 美織、齋藤 楓花、篠原 由伊、須田 優希、野口 美空、水野 桃笑、宮城 優奈、飯尾 夏帆、五十嵐 友香

精神看護学領域

我が国における自閉スペクトラム症の子を持つ親の葛藤に関する概念分析

鈴木 萌子、飯野 史奈、栗城 妃華、齊藤 琉ノ介、齋藤 璃々香、菅谷 樹里、大丸 由夏、土谷 理子、中村 藍香、新村 遥

地域看護学領域

看護学生の「性に対する態度」の実態調査

小嶋 流菜、小山 恵愛、柴田 智美、秋山 風香、板垣 南々瀬、大舘 望央、酒井 葉月、佐藤 杏澄、濤川 美侑、柳瀬 なごみ

看護学生における生活習慣とスマートフォン利用状況との関連

太田 彩美、居石 静、清水 瑠華、曾我部 朝蘭、竹内 萌、千葉 あかり、中宮 凜咲、並木 歩美、波多野 千尋、山口 日万梨

【基礎看護学領域】

1. 教育方針

看護学の学習の基礎として「何故そうするのか」「何が最善か」を自問自答する力の育成をめざす。また、学生が看護の奥深さや楽しさに触れると同時に、専門的な学習への動機づけとなるような授業展開を探究する。

2. 科目名

1) 看護学概論 1 年次前期

(1) 担当教員 松山友子、大野悠子

(2) 教育内容

看護および看護に含まれる基本概念（人間・環境・健康）について理解するとともに、学生自身が今後の看護学の学習に向けた自己の課題を明確にすることを目的に授業を展開した。毎回、事前課題を発表する場を設けた他、看護の記録映像を題材に、看護の活動や役割をグループで検討・発表した。学生からは他者の意見から学びが広がったとの意見が聞かれた。次年度も意見交換の場を設け、自らの意見を述べることを課題としたい。

2) 看護実践技術論Ⅰ（日常生活における援助技術と判断） 1 年次前期

(1) 担当教員 高橋智子、松山友子、吉良理絵、吉末雅哉、吉田貴恵子、大野悠子

(2) 教育内容

看護技術の基本的な成り立ち及び人間の生活の特徴に関する理解に基づき、看護場面に共通する技術（感染予防、ボディメカニクス）や人間の生活過程を整えるために必要な看護技術（療養環境・活動・休息・安全・安楽・衣生活・排泄・食事を整える技術）について、体験学習を踏まえた講義やグループワーク、演習を実施した。次年度は演習内容・方法を精選し、LMS 教材を有効活用した教育方法を継続したい。

3) 看護実践技術論Ⅱ（治療、処置における援助技術と判断） 1 年次後期

(1) 担当教員 吉良理絵、松山友子、上國料美香、高橋智子、吉末雅哉、吉田貴恵子、大野悠子

(2) 教育内容

診療の援助技術である無菌操作、膀胱留置カテーテル、注射、採血などの侵襲を伴う看護技術について、専門職として必要な知識・技術・態度を身につけられるよう指導した。演習では、看護師や患者の体験を通じて、安全に看護技術を実施するための解剖学的な根拠や、看護技術を支える看護師の倫理性・安全性について、学生が自ら気づけるよう工夫して指導した。次年度は、ナラティブデモンストレーションや ICT の活用を検討したい。

4) 看護実践技術論Ⅲ（看護技術の統合） 1 年次後期

(1) 担当教員 高橋智子、松山友子、上國料美香、吉良理絵、吉末雅哉、吉田貴恵子、大野悠子

(2) 教育内容

口腔ケアや洗髪の演習ならびに清潔の援助技術を例に教育用カルテを活用し、グループ・個人で対象の個性に合わせた援助計画の立案および実施・評価を行った。援助計画の実施・評価について、グループ討議、LMS 教材のルーブリック評価を用いることにより、学生は主体的に学習できていた。次年度も、教育用カルテおよび LMS を活用し、学生が対象の個性に合った援助を検討・実施できるように努めたい。

5) ヘルスアセスメント 1 年次前期

(1) 担当教員 吉良理絵、高橋智子、松山友子、吉末雅哉、吉田貴恵子、大野悠子

(2) 教育内容

対象者を包括的に理解するための基本的技術について、講義で知識を学び演習で実践した。講義では、視聴覚教材を用い具体的なイメージを持てるよう工夫し、発問を取り入れディスカッションを行った。演習では、脈拍や血圧測定 of 技術試験を実施した。対象者を系統的に理解するために、基本的ニード理論に基づくアセスメントガイドを作成し、意見交換を行った。次年度は、観察で得た情報をアセスメントする能力の強化に取り組みたい。

6) 看護過程と看護方法論 1 年次後期

(1) 担当教員 松山友子、上國料美香、高橋智子、吉良理絵、吉末雅哉、吉田貴恵子、大野悠子

(2) 教育内容

看護過程の 5 段階をさらに 11 のステップに分け、ステップごとに反転授業を取り入れ、事前課題（ワークシート・事例検討）→授業（グループでの意見交換・事例の参考例の提示と疑問点への解説）→事後課題（事例検討の修正）という流れで授業を展開した。今年度は、事例検討に習熟度別のグループ編成を導入した結果、学生の理解度や満足度が座席によるグループ編成時より高く概ね好評であったため、次年度も継続したい。

7) 看護理論 2 年次後期

(1) 担当教員 上國料美香、吉良理絵、大野悠子

(2) 教育内容

看護学の基盤となる代表的な看護理論家を選定し、理論家の背景・理論の概要・特徴について、課題学習、グループ毎に担当する理論家の発表とクラス内討議、教員からの補足講義を行った。学生は、看護理論に対する理解や関心を深めるとともに、看護理論を実践に活用する意義について自らの考えをレポートにまとめ述べることができた。来年度も、グループ討議や発表方法を工夫し、看護理論の理解深化につながる授業を展開したい。

8) 看護教育学 4 年次後期

(1) 担当教員 上國料美香、吉末雅哉

(2) 教育内容

看護学教育に関わる制度やカリキュラムについて、講義とグループ討議を用いて授業を展開した。また、本学のカリキュラムと授業設計を確認するとともに、「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標」を参考に自らの4年間の学びを自己評価する演習を取り入れた。学生は、大学で看護学を学ぶ意義を見直し、今後の課題を述べていた。また、授業テーマに沿ったグループ討議やレポートの記載が学びの整理になったと述べており、次年度も文字数や提出期限を検討の上継続したい。

9) 看護学体験実習 1年次前期

(1) 担当教員 高橋智子、松山友子、吉良理絵、駒田真由子、浅井百合絵、岸達也、
佐藤琴美、吉末雅哉、吉田貴恵子、大野悠子

(2) 教育内容

訪問看護ステーションを含めた3施設の協力を得て、医療施設の環境および看護活動の実際について見学や指導者からの説明を受け、体験的に学習した。成果発表会を通して、学生は看護・人間・健康・環境に関する学びを具体化させ、看護師の役割についての理解を深めることができていた。次年度は、外来や地域等の実習の場を拡大し、健康問題を持ちながら生活する人々やその看護にも関心を向けられるよう実習を展開したい。

10) 日常生活援助展開実習 1年次後期

(1) 担当教員 高橋智子、松山友子、上國料美香、吉良理絵、浅井百合絵、鬼澤宏美、
勝山なおみ、岸達也、佐藤琴美、菅原裕美、関口奈津子、永井史織、森山潤、
吉末雅哉、吉田貴恵子、大野悠子

(2) 教育内容

2施設に協力を得て、学生は患者1名を受持ち、患者の個別性に応じた援助の実践を目指してバイタルサインの観察や療養環境の整備、清潔ケア等の援助計画を立案・実施・評価を行った。学生は患者に対峙することで、学内での学びを具体化させ、個別性に応じた援助の必要性について理解を深めることができていた。次年度も実習施設と連携を図り、学生が個別性に応じた援助を実践できるような指導体制を継続したい。

11) 看護過程展開実習 2年次前期

(1) 担当教員 高橋智子、松山友子、上國料美香、吉良理絵、鬼澤宏美、勝山なおみ、
岸達也、佐藤琴美、菅原裕美、関口奈津子、永井史織、森山潤、吉末雅哉、
吉田貴恵子、大野悠子

(2) 教育内容

2施設の協力を得て、看護過程を展開することを通し、個別性に応じた看護を実践する方

法の理解を深めた。学生は、受け持ち患者の情報のアセスメントを通して、既習学習で対応可能な看護上の問題に取り組み、看護計画の立案・実施・評価を行った。学生は、日々の教員の指導により思考を整理・深化させることができていた。次年度は教員と実習施設との連携を強化し、指導内容・方法の充実を図りたい。

【成人・老年看護学領域】

1. 教育方針

成人期と老年期を一連のライフサイクルとして捉え、幅広いライフステージの人々を対象とした看護実践能力の養成を目指している。DX、アクティブラーニングを重視し、“tomorrow’s Nurse”の資質の錬成につながる講義・演習・実習を展開していきたい。

2. 科目名

1) 成人看護学概論 1年次後期

(1) 担当教員 竹内朋子

(2) 教育内容

成人期にある人々の身体・心理・社会的特徴と、成人看護学の基礎を理解することを目指した。成人期の健康に関する疫学データ、生活習慣と健康問題の関連、成人看護に関する主要な諸理論、成人期の経過別看護の特徴について講義し、自己と他者の経験や意見を学習資源にできるよう、事前課題やグループディスカッションを活用した。成人看護学の導入となる科目であるため、次年度も成人看護の基礎を修得できる講義を目指したい。

2) 老年看護学概論 1年次後期

(1) 担当教員 新山真奈美

(2) 教育内容

老年期にある人々の発達課題および身体・精神・社会的特徴等、高齢者を多角的に理解することを目指した。高齢社会が直面する保健医療福祉の課題や老年看護の役割を理解できるように、事前学習として小テストや課題（高齢者の特徴・制度・倫理的課題）の提示、授業においてはディスカッションや課題の発表、高齢者疑似体験の演習も取り入れた。次年度も学生が高齢者に関心をもち、超高齢社会にも目を向け、老年看護学を学ぶことの動機付けとなるように教授する。

3) 慢性期看護論 2年次前期

(1) 担当教員 松本和史、原口昌宏、佐藤琴美

(2) 教育内容

慢性疾患をもつ対象者の受容過程をふまえ、セルフケア能力を高めるための援助について理解することを目指した。器官系統別に代表的な慢性疾患とその看護について講義し

た。授業内容に関するテストを毎回実施し理解が深まるよう促した。視聴覚動画と教育用電子カルテを用いた看護過程演習や血糖測定等の看護技術演習も行い、実践的な理解を深めた。次年度も、看護過程や看護技術の演習を取り入れた授業を行う。

4) 老年看護実践論 2 年次前期

(1) 担当教員 新山真奈美

(2) 教育内容

加齢現象やフレイルに加え、高齢者特有の疾患や主要な症状からくる健康問題や生活障害を持ちながら暮らす高齢者を理解し、対象に応じた健康支援や生活支援の習得を目標に進めた。事前学習として各回に小テストや課題を提示し、主体的に学修する意義を理解できるよう動機づけを図った。授業ではディスカッションや課題の発表等も取り入れ、技術演習では高齢者の生活機能や潜在能力(もてる力)を活用した技術(排泄、移乗・移動、食事、吸引等の看護技術)の提供を意識し教授した。次年度も、学生が主体的に学び、看護実践能力の基盤となる授業展開を行う。

5) 家族看護学 2 年次後期

(1) 担当教員 松本和史

(2) 教育内容

病気や障害が家族に与える影響と家族が障害や患者に与える影響について理解し、家族を単位として展開する看護について学ぶことを目標とした。家族看護に関する講義やグループワークを行い、家族の複雑な問題を多角的に考える力を養った。家族看護の実践者による講義も取り入れた。各回の目標と自己評価に ICE モデルに基づくルーブリック評価を導入した。次年度も、講義とグループ演習を取り入れた授業構成とする予定である。

6) 急性期看護論 3 年次前期

(1) 担当教員 高田由紀子、原口昌宏

(2) 教育内容

急性期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴と生命維持、術後合併症予防、回復に向けた看護について理解することを目標とした。代表的な疾患の病態と手術を中心とした治療、救急集中治療の特徴について講義を行い、侵襲による変化、特有の合併症や看護についての理解を深めた。次年度はより周術期看護の実践に直結するアセスメント能力向上と患者の全人的な理解を深める授業を目指す。

7) 終末期看護論 3 年次前期

(1) 担当教員 竹内朋子

(2) 教育内容

終末期にある対象の全人的苦痛を緩和するための看護、臨死期・死亡直前期・死後の看護、

終末期患者家族へのグリーフケアについて理解することを目標とした。死すべき存在を対象とする医療職を目指す者として、自己と他者の経験や意見を学習資源にできるよう、事前課題やグループディスカッションを活用した。次年度も、終末期看護の実践能力向上につながる講義を目指す。

8) 成人看護実践論 3年次前期

(1) 担当教員 松本和史、高田由紀子、原口昌宏、佐藤琴美

(2) 教育内容

成人看護に必要な看護技術を理解し、個別性のある看護過程を展開できることを目標にした。看護技術に関しては、酸素療法、血糖測定、一次救命処置などの看護技術の演習を行った。さらに、シミュレーション演習を取り入れ、学生が臨床現場をイメージして主体的に学修できるよう工夫した。看護過程に関しては、教育用電子カルテでの看護事例を用いて、より実践的な理解を促した。

9) 慢性期看護学実習：2年次後期

(1) 担当教員 松本和史、新山真奈美、竹内朋子、高田由紀子、原口昌宏、佐藤琴美、岸達也、関口奈津子、吉末雅哉、吉田貴恵子、永井史織、浅井百合絵、鬼澤宏美、勝山なおみ、菅原裕美、森山潤、増田理恵

(2) 教育内容

患者の退院後の生活の再構築に向けた看護を学ぶことを目的に、高齢者施設と病院で行った。高齢者施設実習では、高齢者とのコミュニケーションや援助場面の見学を通して、高齢者の特徴や看護の役割を学習した。病院実習では慢性期の入院患者1名を受持ち、看護過程の展開を行った。また、外来看護実習等を取り入れ、多角的に看護師の役割を学べるよう工夫した。次年度も、高齢者施設と病院で実施し、慢性期看護の実践的な学びが深まるようにする。

10) 急性期看護学実習 3年次後期

(1) 担当教員 高田由紀子、松本和史、原口昌宏

(2) 教育内容

外科系病棟での看護過程展開実習、手術室(1日)並びに救命救急センター(1日)での実習の計2週間で構成した。教員と実習指導者は、協働して患者の全体像をふまえた看護過程の展開ができるよう指導した。実習記録から術後合併症予防と早期離床ケアのほか、退院後の生活を見据えた指導ケアの重要性、看護師の役割などが理解できた実習となっていた。次年度も前期の演習や講義、課題と統合して実習との連動性を高めた実習を目指す。

11) 終末期看護学実習 3年次後期

(1)担当教員 竹内朋子、佐藤琴美

(2)教育内容

各学生が入院中の終末期患者 1 名ずつ受け持ち、終末期の全人的苦痛を緩和するための看護、臨死期・死亡直前期・死後の看護、終末期患者家族へのグリーフケアを看護過程にそって実践した。次年度も、終末期にある患者と家族への緩和ケアを実践する能力を養成していきたい。

【小児看護学領域】

1. 教育方針

健康・不健康を問わず、子どもとその家族・取り巻く社会を理解し、発達段階に応じた専門的知識に基づく技術の実践できる能力を養うことを目的とし小児看護学概論・小児看護実践論・小児看護学実習の 3 科目の構成。

2. 科目名

1) 小児看護学概論：2 年次後期

(1) 担当教員 中島美津子、玄順烈、永井史織

(2) 教育内容

現代の小児看護の役割と課題の明確化を目的とし、小児各期の成長・発達理論、小児医療の歴史的変遷、倫理、理念および身体機能を学ぶ全回対面講義。毎回グループワークを実施。子どもを取り巻く社会の変化を反映させた外部講師からのリアルな現場の話や時事問題に関するテーマでのディスカッションもあり、アンケートでもグループでの学びの共有や生の講義が好評であった。次年度も社会変化に則した講義展開としたい。

2) 小児看護実践論：3 年次前期

(1) 担当教員 中島美津子、玄順烈、永井史織

(2) 教育内容

子どもの健康障害の回復や成長発達の促進に向けた子どもとその家族の援助方法を理解することを目的とし、子どもの病状や経過、子ども特有の症状に応じた看護実践に必要な基礎的知識を学び、全回対面講義。急性期から終末期までの経過別、障害のある子どもとその家族の看護などの実習事例や国家試験対応事例など関連する 3 つの技術演習を実施。次年度も実習や国家試験に繋がる事例とその技術演習を展開したい。

3) 小児看護学実習：3 年次後期

(1) 担当教員 玄順烈、中島美津子、永井史織

(2) 教育内容

小児看護に必要な基礎的スキルの実践を目的とし、1 週間病棟 1 週間保育園での実習とし、東京医療センター 5B 病棟、成育医療研究センター、世田谷区立保育園 43 園で実習。保

育園児と入院中の子どもとの比較や学内での学びの共有、指導者と教員や多職種とのカンファレンスを通じて、子どもが示す反応の意味、子どもの力を発揮させる援助の工夫、家族との情報共有方法、非言語的コミュニケーションなどの学びの深まりがみられた。

【母性看護学・助産学領域】

1. 教育方針

女性のライフサイクル（乳幼児期・思春期・成熟期・更年期・老年期）およびマタニティサイクルにある妊娠・分娩・産褥・新生児の生理・病態と母子およびその家族への援助理論と方法について学ぶ。

2. 科目名

1) 母性看護学概論 2 年次後期

(1) 担当教員 朝澤恭子、渡邊香、小嶋奈都子、戸津有美子、鬼澤宏美

(2) 教育内容

内容は母性の概念、セクシュアリティ、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、母性看護の歴史と母子保健統計、女性のライフサイクル各期の健康問題と看護であった。講義の他に周産期の倫理的課題に対する事例検討を実施し、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを用いた。次年度も講義内容と教材を精選し、ICT活用とアクティブラーニングの実施に取り組む。

2) 母性看護実践論 3 年次前期

(1) 担当教員 朝澤恭子、渡邊香、佐藤いずみ、小嶋奈都子、戸津有美子、浅井百合絵、
鬼澤宏美、勝山なおみ

(2) 教育内容

内容は主に妊娠期・分娩期・産褥期のある女性と新生児に対する看護である。授業は、講義と演習により構成した。事例検討、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを用いた。母性看護技術演習では演習時間に個別指導を行い、確認テストを実施し、コメントをフィードバックした。次年度も講義内容と教材を精選し、ICT活用とアクティブラーニングの実施に取り組む。

3) 母性看護学実習 3 年次後期

(1) 担当教員 朝澤恭子、渡邊香、佐藤いずみ、小嶋奈都子、戸津有美子、浅井百合絵、
鬼澤宏美、勝山なおみ

(2) 教育内容

東京医療センターおよび成育医療研究センターにおいて臨地実習を 90 時間実施した。学生は産後入院中の母子 1 組を受け持ち、看護過程を展開するとともに、母子の健康状態の

観察、褥婦への癒しケア、新生児の沐浴またはドライテクニック等の看護を実践した。一部の学生は妊婦の健康診査の実践および分娩期のケアも行った。次年度は沐浴や分娩見学等がより多く実施できるよう調整する。

4) 疾病と治療Ⅳ 2年次前期

(1) 担当教員 朝澤恭子、金子あけみ、門間哲雄

(2) 教育内容

内容は内分泌疾患、女性生殖器疾患、泌尿器疾患における病態生理と治療、看護であった。解剖学・病態生理学等の知識を想起させ、関連づけて体系的に学ぶように計画した。講義では病態生理の図解、反復強調、動画や静止画の視聴、ミニテスト、国家試験問題の解説を工夫した。乳房モデルを用いた自己検診体験などのアクティブラーニングも取り入れた。次年度も知識の定着を促す工夫をし、ICTとアクティブラーニングを取り入れる。

【精神看護学領域】

1. 教育方針

精神・身体・知的を含む三障害の概念や特性の理解を目的とし、歴史的背景や基礎的知識、看護援助の習得に関するカリキュラムを実施している。障害者を取り巻く現状や課題に、主体的な言動ができる態度を身につけてほしいと願っている。

2. 科目名

1) 看護倫理 1年次後期

(1) 担当教員 田中留伊、朝澤恭子、玄順烈、中村裕美、菅原裕美

(2) 教育内容

本科目は看護実践における倫理の重要性や倫理的課題の解決方法を理解し、人権擁護の視点から、看護師としての責務を果たせる専門職の育成を目的としている。医学的知識や実習経験が少ない1年次後期科目のため、授業では身近な事例や問題を提示し、倫理的問題に対する関心を高められるよう工夫を行った。また、授業終了後は小レポートの提出を求め、双方向の授業を心がけた。次年度も引き続き上記の取り組みを行っていききたい。

2) 臨床コミュニケーション論 2年次前期

(1) 担当教員 田中留伊、中村裕美、菅原裕美

(2) 教育内容

自己のコミュニケーションについて洞察及び啓発を目的とした科目である。日常場面のコミュニケーション技術について、陥りがちな課題に焦点を当てながら、段階的に実際の臨床場面での効果的なコミュニケーションを考察できる構成とし、主体的に参加できるよう体験型授業展開を行った。次年度以降も、専門的で相手の立場に立った自分らしいコミュニ

ケーションを常に模索していけるような授業展開を心がけていきたい。

3) 精神看護学概論 2年次後期

(1) 担当教員 田中留伊、中村裕美、菅原裕美

(2) 教育内容

精神看護に関する初学者であるため、理解しやすい用語や内容で関心が持てるよう心がけた。こころの働きや精神的健康、障害の概念や歴史的背景が理解できるよう工夫した教材を用い、精神障害者の健康増進・ノーマライゼーションを推進するために必要な基礎的知識を習得できるよう展開した。授業内で発言できる機会や授業終了後の小レポート提出など学生が主体的に取り組める配慮を行った。次年度も引き続き上記の取り組みを行っていききたい。

4) 精神看護実践論 3年次前期

(1) 担当教員 中村裕美、田中留伊、菅原裕美

(2) 教育内容

精神障害を持つ対象の理解が深まるように、主な精神疾患や症状についてオリジナルの教材を用いて授業を展開した。また、精神障害をもつ対象の支援に必要な看護技術が考えられるよう個別で事例展開をし、全体で発表会を行うことでアクティブラーニングを取り入れ学習を深めた。さらに、授業後の小レポートの内容を踏まえ次回の授業では学生の理解しにくい点を補足できるような工夫を行った。次年度以降も上記取り組みを継続していきたい。

5) 障害者看護論 3年次後期

(1) 担当教員 中村裕美、田中留伊、菅原裕美

(2) 教育内容

精神・身体・知的の三障害を持つ対象を理解できるように、オリジナルの教材にて授業を展開した。神経難病及び筋ジストロフィーの具体的な看護実践や支援については、臨床で看護を実践している講師を招き、生きた看護を学べるよう工夫した。また、実習での経験や本授業で習得した知識を基に障害者観に関するグループワーク及び発表会を実施し、個々の障害者観を深める機会とした。次年度以降も上記取り組みを継続していきたい。

6) 精神看護学実習 3年次後期

(1) 担当教員 田中留伊、中村裕美、菅原裕美

(2) 教育内容

精神障害者を包括的に理解するとともに、自立や自己実現に向けた看護が実践できる基礎的能力を育成することを目的とし、病院及び就労継続支援事業所等で実習を展開した。学

生は受け持ち患者を通して看護過程の展開を行い、また、m-ECTや多職種カンファレンス等を見学したことで、精神医療の実際及び保健医療福祉チームの現状や課題について考えることができた。今後も、実習指導者との連携を密に行い効果的な指導を検討していきたい。

【地域看護学】

1. 教育方針

地域看護学領域では、地域で暮らす様々な健康段階にある人々が主体性をもち生活するために必要な支援について、理論や技術および諸制度を通して学ぶことを目的とする。科目は、地域看護学と在宅看護学で構成される。

2. 科目名

1) 地域看護学概論 1年次前期

(1) 担当教員 明石眞言

(2) 教育内容

人々の生活の質の向上とそれを支える健康で安全な地域社会の構築、健康と安全を支援することにより生活の継続性を保障し、生活の質の向上に寄与、多様な場で生活する様々な健康レベルにある人々を対象とし、その生活を継続的・包括的にとらえることを学ぶ。次年度は、社会の動きと学生の考えを積極的に取り入れた内容としたい。

2) 自立支援教育論 1年次後期

(1) 担当教員 駒田真由子

(2) 教育内容

健康教育の方法、健康行動に関する理論を提示し、健康課題を抱えた対象に対して、自立支援へとつなげる具体的な手法を講義で提供した。地域住民を対象として設定し、健康教育の企画、媒体作成、実施について学生が取り組み、グループで対象者や媒体を選定して、地域住民に実施することを想定した演習を行った。次年度は、媒体作成時に、いっそう学生が主体的に取り組めるように支援していきたい。

3) 疾病予防看護学 2年次前期

(1) 担当教員 駒田真由子

(2) 教育内容

プライマリヘルスケアやヘルスプロモーションの基本的考え方、Social determinants of health と健康増進施策、健康格差について、最新の法改正や世界における課題についても含めて講義を構成している。行動経済学、ナッジ理論についても紹介した後演習を実施し、健康行動の変容に活かす必要性について考え、学んでもらうことに努めた。説明方法の工夫により、学生の理解度が高くなると感じたため、次年度も、さらに理解度が高められるよう

に展開したい。

4) 在宅看護学概論 3 年次前期

(1)担当教員 増田理恵

(2)教育内容

在宅看護が要請される社会的背景や法制度の変遷および教育の動向を踏まえ、在宅看護過程に用いる ICF 理論や家族システム理論等についてペーパー事例を通して実践的に学ぶことを目的とした。また家族介護者理解を深めるために、介護離職、ヤングケアラーなどの時事的問題を取り上げ、看護職としての介護者支援のあり方を提示した。次年度は、リアクションペーパーによる授業に対する質問・意見の把握とフィードバックに努め、課題等の改善を図りたい。

5) 在宅看護実践論Ⅰ 3 年次後期

(1)担当教員 駒田真由子、増田理恵、森山潤

(2)教育内容

在宅看護におけるコミュニケーション、医療ケア、災害対策、疾患別の看護など事例や映像を用い、既習の知識の統合と応用が図れるよう工夫した。また講義内でもアセスメント技術の向上を意識したほか、発展的な内容として外部講師による講義で、訪問看護ステーション開設・運営の基礎等に関しての理解を促した。次年度は、カリキュラム改正を受けるため開講はない。主な内容については新カリキュラムの在宅看護実践論に引き継ぐ予定である。

6) 在宅看護学実習 4 年次前期

(1)担当教員 明石眞言、駒田真由子、増田理恵、森山潤

(2)教育内容

在宅看護実践論Ⅰ・在宅看護実践論Ⅱを学び、4 年次で在宅の臨地実習に挑むカリキュラムが最後の学年であった。在宅療養者・家族が自立した生活を営むために必要な保健・医療・福祉の連携の実際を学び、地域包括ケアシステムの中の看護の役割を考察することを促した。最高学年であり、課題の完成度が比較的高かったが、次年度は 3 年生の各論実習に置き換わる予定である。

7) 在宅看護実践論Ⅱ 4 年次前期

(1)担当教員 駒田真由子、増田理恵、森山潤

(2)教育内容

実習に向けての準備として、地域ケア会議のロールプレイング、ペーパー事例のケアマネジメント演習、在宅看護過程の展開などを通して在宅看護の知識と技術を身につけるための演習を行った。実習直前の復習と確認の意味もある講義であったため、多くの学生が集中

力を保っていた。次年度はカリキュラム改正で終了する科目であるが、主な内容については新カリキュラムの在宅看護実践論に引き継ぐ予定である。

8)在宅看護学実習 3年次前期

(1)担当教員 明石眞言、駒田真由子、増田理恵、森山潤

(2)教育内容

新カリキュラムとなり、各論実習に組み込まれて実施した初めての学年であった。実習では、療養者・家族が自立した生活を営むために必要な保健・医療・福祉の連携の実際を学び、地域包括ケアシステムの中の看護の役割を考察することを促した。4年生までの実習とは異なり、看護過程の進め方や記録の進め方に課題が残るものの、各論実習を通して成長する学生に合わせて指導をしていく必要性を感じた。次年度は、学生が学びを積極的に発言できるよう支援していきたい。

6-2. 大学院看護学研究科

【高度実践看護コース】

1. 教育方針

クリティカル領域における診療看護師（NP）の役割を理解し、専門性の高い、高度な実践力をもって役割を遂行できる能力を習得した診療看護師を育成することを目標としている。チーム医療の一員として患者の状況・病態を的確に把握し、自ら考え、判断し、安全性を確保した上で、必要な診療行為・ケアが確実に提供でき知識・技術・態度を習得する。今年度は、演習、実習の一部を、本コースの修了生（診療看護師：NP）で、臨床現場で活躍している診療看護師（NP）が分担し、年2回開催した臨床教授会にも、一昨年度から臨床実習指但し、実習中自己都合等で、1行為の実践が5症例に満たなかった場合は、特定行為の認定証明ができないこともあります。

2. 科目名

1) クリティカルNP特論 1年次前期

(1) 担当教員 山西文子、浦中桂一、忠雅之、武田純三、鈴木美穂、関口奈津子

(2) 教育内容

NPを導入している先進国、とくに米国におけるNPの現状等を把握するために、米国で実践活動をしているNPやNPと活動した経験をもつ医師等の講義を受け日本における診療看護師の現状および課題等について理解を深めた。統合実習の前後にて特定行為に関する手順書を作成し、医師も含めたスーパーバイズを受けた。診療看護師（NP）を取り巻く行政や各学会の動向について適時、学生に情報提供および指導内容に含めていく必要がある。

2) 人体構造機能論・演習 1年次通年

(1) 担当教員 忠雅之、石志紘、白石淳一、久保田義顕、川岸久太郎、関口奈津子

(2) 教育内容

クリティカル領域における人体の機能や構造に関する基礎知識を習得するため、各学生が各臓器や疾病の病態生理を担当し、特定の行為に関連する解剖生理のプレゼンテーションをおこなった。発表後は各専門医の講師からアドバイスや指導を受ける形式とした。さらに解剖見学と解剖見学演習を通して人体の構造を肉眼的に観察し、知識の理解を深め習得することができた。2年次の統合実習に向けて良い動機付けとなるよう心掛けたい。

3) クリティカル疾病特論 1年次前期

(1) 担当教員 浦中桂一、忠雅之、関口奈津子、牛窪真理、小林佳郎、上野博則、池上幸憲、須河恭敬、吉川保、安富大祐、谷本耕司郎、樫山幸彦、門松賢、川口義樹、福原誠一郎、山根章、小山田吉孝、林拓郎、古野毅彦、栗原智宏、鈴木亮

(2) 教育内容

クリティカル領域において頻度の高い疾患について、医学的根拠に基づく判断能力と問題解決能力を修得するために、各疾病の病因、病態生理等の基礎的な知識を学んだ。具体的な授業展開は、グループ毎に課題症例を設定し、文献的な検討を行いながら、講師から指導を受け、プレゼンテーションを行い、発表後に講師から指導を受ける形式で行った。さらに学生の学修効果を高めるためには、事前学修、事後学修の徹底を図る必要がある。

4) 診察、診断学特論（包括的健康アセスメント）1年次前期

(1) 担当教員 小野孝二、山西文子、尾藤誠司、上野博則、樫山幸彦、栗原智宏、白石淳一、北沢敏男、長谷川栄寿、奥田茂男、武山茂、福原誠一郎

(2) 教育内容

患者の病態に対応した症状アセスメント、診察ができるための知識を習得することを目的にした科目である。診察、生理学的諸検査で得られた所見等を用いて、診断が確定できる能力を修得することができた。個々の患者に対応した的確な診察の方法、診断のために必要な臨床検査の選択、検査結果の解釈、撮影から読影迄のプロセスと医師による読影法などを学び、診断のプロセス等を実際のデータ等を使用して理解を深めることができた。

5) フィジカルアセスメント学演習 1 年次前期

(1) 担当教員 浦中桂一、忠雅之、関口奈津子、小山田吉孝、池上幸憲、安富大祐、鄭東孝、森岡秀夫

(2) 教育内容

患者の健康問題を解決する上で必要とされ、身体的・包括な機能評価のためフィジカルイグザミネーションについて、学生がインストラクターとなってグループ学習を展開した。アクティブラーニングを対面授業にて展開したが、今後は後半の医師の講義に先立ち前半のまとめにて臨床推論の要素をより多く取り入れて疾患を思考する身体診察する時間を設ける必要がある。

6) 臨床推論 1 年次前期

(1) 担当教員 浦中桂一、忠雅之、関口奈津子、鄭東孝、山下博、鈴木亮、吉田心慈、南修司郎、安富大祐、太田慧、栗原智宏、上野博則、辻崇、古野毅彦、吉田哲也、野田徹、三春晶嗣、門間哲雄

(2) 教育内容

クリティカル領域で遭遇する症状や状態に応じた臨床推論ができるよう、その過程を学び、それを裏付けるためのフィジカルアセスメント・検査を行い、症状に応じた的確な判断・臨床推論ができるための知識・技術を習得する。臨床推論の実践について、事例を用いて医師の思考過程についても理解を深める。最も多い時間をかけて学修するように臨床教授の医師も積極的に協力してもらい、実習時に繋がるような指導をしてもらっている。

7) 診断のためのNP実践演習 1 年次後期

(1) 担当教員 浦中桂一、山西文子、忠雅之、関口奈津子、奥田茂男、鈴木亮、太田慧、鄭東孝、林智史、安富大祐、池上幸憲、栗原智宏、辻崇、早川隆宣、高以良仁、森泉元

(2) 教育内容

クリティカル領域において対応する可能性の高い患者のフィジカルアセスメントができ、必要とされる臨床検査の選択を安全かつ確実に実践するための知識、技術の修得を目的とする。特定行為2行為について実技試験を実施し履修生の技術習得度を評価した。今後は授業内容と関連させて評価方法を洗練していく必要がある。患者の実際の画像を用いて画像診断の進め方、トリアージの概念、機能、方法を学ぶ学生たちが診療行為(特に省令に定められた特定行為)毎の手順書を作成し、臨床実習の際の資料として活用し統合実習の際の指導医師の理解も深まりつつある。

8) 臨床薬理学特論 1 年次前期

(1) 担当教員 浦中桂一、忠雅之、廣田孝司、青山隆夫、大島信治、池上幸憲、吉川保、福原誠一郎、須河恭敬、岩田敏

(2) 教育内容

本科目はクリティカル領域で使用頻度の高い薬物療法について確認し、各種薬物と生体との反応機序、薬物の効果に個人差が生じる要因等について理解し、安全な治療を進めるために必要な知識を身に付けることを目標とする。外部講師による講義で薬事法を含む薬物の安全管理と処方について理解を深め、更に、臨床現場の専門医から指導頂いた。学生には苦手意識が見られるが、動機づけはされたので、今後は各学生の個人学修に拠る。

9) 治療のためのNP特論 1 年次後期

- (1) 担当教員 浦中桂一、忠雅之、関口奈津子、安村里絵、吉川保、川口義樹、小山孝彦、林拓郎、大迫茂登彦、石志紘、樺山幸彦、太田慧、大島久二、山下博

(2) 教育内容

クリティカル領域の患者に対する治療法およびその適応について科学的根拠に基づいて理解する科目である。治療の生体へのメリット、デメリットを理解し、治療の立案、変更、終了などの判断が的確に実行できるための知識を修得することができた。消化器系手術、呼吸器系手術、脳の手術、心・大血管系の手術を取り上げ、手技に関する基本的事項、輸血、感染予防などを専門医から直接指導を受けることができた。

10) 治療のためのNP実践演習 1 年次後期

- (1) 担当教員 浦中桂一、山西文子、忠雅之、関口奈津子、池上幸憲、佐々木毅、小井土雄一、岩田敏、太田慧、木下貴之、宮田知恵子、須河恭敬、小山田吉孝、吉川保、栗原智宏、川口義樹、落合博子、小山孝彦、若林和彦、鄭東孝、安富大祐、鈴木 亮、森岡秀夫、大迫茂登彦、門松賢、中村真樹、高以良仁、森泉元、筑井菜々子、他 JNP2 名

(2) 教育内容

選択した治療法の科学的な根拠を理解し、患者への説明と、患者の同意のプロセス、選択した治療を的確に実行できるための技術を修得する。また、治療の際の診療看護師としての役割と限界を認識することの重要性を学んだ。今後も救急・重症患者の管理方法、集中治療の管理方法、がん化学療法とペインコントロールの方法、人工呼吸器・気管挿管・抜管・縫合・圧迫止血・経腸栄養・中心静脈ライン確保・褥瘡の治療方法などの処置等について、適用する目的、手順を、演習を通して学べるよう学習環境を整えていく。また特定行為 6 行為について実技試験)を実施し履修生の技術習得度を評価した。今後は授業内容と関連させて

評価方法を洗練していく必要がある。

11) 統合演習 2 年次前期

- (1) 担当教員 浦中桂一、山西文子、忠雅之、関口奈津子、鈴木亮、高以良仁、TA 数名

(2) 教育内容

救急外来、内科外来、一般病棟における診療看護師(NP)としての役割や臨床推論を活用した患者の病態や必要な検査・治療について考えることができることをねらいとした。これまでの看護経験と 1 年間学修してきた医学知識を統合し、外傷事例、心窩部痛事例、呼吸器疾患事例を用い、リーダーシップ、メンバーシップをとりながらチームパフォーマンスが最大限に機能できる基本的能力を養う内容とした。

12) 統合実習 2 年次通年

- (1) 担当教員 山西文子、浦中桂一、忠雅之、関口奈津子、東京医療センター・災害医療センター・東京病院の臨床教授、JNP 実習指導者他

(2) 教育内容

2 年次 7 月から 12 月中旬までで 17 週間、国立病院機構東京医療センター、災害医療センター、東京病院の 3 施設において、救命救急科、総合内科、外科、麻酔科の各診療科をローテーションし、計 17 週の実習を行った。実習では、実習指導医の指導のもとで、患者を受け持ち、患者の診察・診断、治療の一連のプロセスを経験した。1 年次に講義、演習を通して学んだ知識と技術を統合し、チーム医療の一員としての診療看護師の役割を意識しながら、実習に取り組んだ。学生が作成した 38 の特定行為の手順書を施設に提示し、省令に定められている 38 の特定行為の実

実践経験を積み重ねるなど、積極的に取り組んだ。臨床指導医からの実習の評価も高く、全員が無事実習を修了することができた。統合実習の開始前、および終了後に本学およびオンライン形式において、計4回の臨床教授会を開催し、本学の教員も参加し、意見交換を行った。

13) コンサルテーション・インフォームドコンセント特論 1年次後期

(1) 担当教員 忠雅之、関口奈津子、尾藤誠司、木下貴之、岩田敏、宮田知恵子

(2) 教育内容

医療におけるコンサルテーションとインフォームドコンセントのもつ意味を理解し、患者の状況に対応して説明できる知識と実践方法を学修することができた。状況に応じたインフォームドコンセントの実際の医療場面の説明方法と内容の課題を受け、ロールプレイ通し、説明の内容の根拠から患者が納得するプロセスをたどれるよう具体的な実践方法を習得することができた。2年次の統合実習に向けて実践につなげる良い動機付けとしたい。

14) NPによるチーム医療特論 1年次前期

(1) 担当教員 忠雅之、関口奈津子、林哲郎、中村香代、川村和也、島田珠美

(2) 教育内容

医師をはじめ専門看護師、クリティカル、プライマリ・ケア、周術期の高度実践看護師や管理者におけるチーム医療の在り方を学修した。またGWを通して日本の医療機関の現状分析をおこない、外部環境と内部環境の視点から問題を取り上げ、チーム医療のガイドライン作成につなげる内容の発表をおこなった。この結果から、今後の新しいチーム医療の在り方について自己の考えを明確にすることができた。

15) 医療安全特論 1年次後期

(1) 担当教員 山西文子、忠雅之、木下貴之、岩田敏、松浦友一、渋谷直子

(2) 教育内容

医療事故等は、日常的に起こる可能性があることを認識し、事故の発生を防止し、患者の安全が最優先事項であることを理解することができた。医療事故を防止するためには、医師の指示を批判的に思考する力、危険を回避するために医療行為の優先度を決定する力、患者に不利益な状況が生じている場合に対象に情報提供できる力、対象が受ける治療や処置に伴う有効性や危険性を患者が分かるように説明できる力などを習得することが必要であることを学んだ。GWを通して日本で実際にあった特定行為に係る事例を取り上げ、既存の理論を使用して分析し、主要な原因や関連する要因、解決までのプロセスについて検討し、その結果を発表し、全体で討議を行う形式で進め、事故の発生を防止するためのさまざまな方策を修得することができた。

16) 政策医療特論 1年次前期

(1) 担当教員 山西文子、松本純夫、女屋光基、石原傳幸、當間重人、笠原群生、島田和弘

(2) 教育内容

政策医療とは何か。国が医療計画を立てて、我が国の国民にどのような医療提供体制を準備しているか。国民の為に意図的に行われている医療の特徴、治療技術の最前線で戦っている医療関係者の話を通して、現在の医療の各種特徴が見えて、そのような医療提供の場においても医療者の一員として力が発揮できるように期待している。今回は成育医療センター笠原病院長、国立がん研究センター島田病院長に最前線の取り組みを伺った。

17) 感染症マネジメント 1年次後期

(1) 担当教員 山西文子、大曲貴夫、岩田敏、関口奈津子

(2) 教育内容

感染症に関して、原因となる病原体についての特徴、ヒトに感染したときの症状の現れ方や特殊な状態などあらゆる側面について講義で知識の確認をし、ここ数年流行しているコビット-19 の流行の特徴。感染防止対策の方法、治療の実際等興味深い知見が得られた。我が国における法的な対応策等の実態も得ることが可能であった。後半はグループになりそれぞれの課題を更に深めて発表会を実施。得るものは多く有意義な単位であった。

18) 医療倫理特論 1 年次前期

(1) 担当教員 手島恵

(2) 教育内容

高度実践看護を提供する際に求められる倫理的実践の基盤として必要な知識を概説した。また、各コースの看護職が実践を行う中で直面した特徴的な事例を取り上げ、臨床倫理の 4 分割法等の理論を援用しながら検討・考察を行った。その上で、各自が実践の際に直面した倫理的課題を事例としてまとめ、コースごと的小グループで当事者や患者にとって最善の方策について検討し発表・共有を行った。次年度は各コースの専門的視点を活かした検討ができるよう工夫したい。

19) ラボラトリー・メソッド特論 1 年次前期

(1) 担当教員 小宇田智子, 明石眞言, 小野孝二

(2) 教育内容

ヒトの健康像を理解するうえで必要な医学・生物学の知識を得るための手法を指導した。臨床現場で使われている手法や最新の科学研究で使われている手法を用いて、個体・組織・遺伝子および分子レベルでの生命現象について理解できるような授業の工夫をした。来年度も、最新の科学研究で使用される手法について、その原理や利用方法などを概説し、生命現象について科学的に正しく理解できるように工夫する。

20) 保健医療福祉システム特論 1 年次後期

(1) 担当教員 金子あけみ、清水美智夫、非常勤講師

(2) 教育内容

保健医療福祉分野における法制度及び政策決定プロセスを学習するため、社会保障システムを主軸に様々な統計データを用いて解説した。これらの知識を踏まえ、学生個々の関心のある保健医療福祉領域の政策提案のプレゼンテーションを実施した。本年度から看護科学コース(看護管理)と一部合同で授業を行ったことにより、学生間の意見交換が活発化し、効果的な学習となった。次年度も学生の視野の拡大、思考の深化を目指したい。

21) 看護管理学特論 1 年次前期

(1) 担当教員 竹内朋子、松本和史

(2) 教育内容

看護管理の基礎知識、看護管理者の役割・機能を理解することを目標とした。2 部構成とし、第 1 部では看護組織のマネジメント、第 2 部では看護組織における人的資源のマネジメントについて講義した。これまでに所属した看護組織や実在のリーダーを分析したり、看護管理者としての自己の資質を考察したりする演習も実施した。

次年度も、診療看護師として医療チームをマネジメントするうえで役立つ講義を目指したい。

22) 研究特論 1 年次前期

(1) 担当教員 手島 恵、小野孝二、田中留伊、竹内朋子、上國料美香、浦中桂一、小宇田智子

(2) 教育内容

看護研究における初歩的な研究テーマの設定法、データ収集法、解析法、倫理上の配慮など

について具体例を示しながら解説した。本来の研究はどういうものであるかを教授し、また、研究成果を学会あるいは学術誌に発表するためのプレゼンテーションおよび論文作成に関する基本的な手法について習得できた。

23) 原著論文購読 1 年次前期

(1) 担当教員 明石眞言、田中留伊、浦中桂一、小宇田智子

(2) 教育内容

英文学術論文特に原著論文を読むための基本的な知識・技術を指導した。特に PubMed を活用しながら、医療・看護分野の英文原著論文を自ら探し、読む力および論理的思考力を養い、専門分野に関する情報収集能力を高められるような授業展開を工夫した。その上で、実際にクリティカル領域に関係した原著英文論文を読み、抄読会を行った。来年度も同様の内容で行う予定である。

24) 課題研究 1 年次、2 年次通年

(1) 担当教員 山西文子、浦中桂一、忠雅之、関口奈津子、その他(教授・准教授・講師・助教)

(2) 教育内容

一人ひとりの院生が、個別の研究課題を設定し、関連情報の収集、研究計画の立案、研究実施、研究成果の発表に至る、研究全般にわたるプロセスを担当教員の助言・指導を受けながら実施した。論文の執筆と学会を模した形式の発表会においては抄録やスライドの準備を行い、成果を論文としてまとめる力、プレゼンテーション能力を習得できた。

学籍番号	指導教員	研究課題
KG023001	原口昌宏	COVID-19 により修学に影響を受けた新人看護師の教育に関する研究－クリティカルケア領域における実地指導者の経験に焦点をあてて
KG023002	小野孝二	全身麻酔下における再分布性低体温予防のためのプレウォーミングの有効性の検証
KG023003	高橋智子	仰臥位時の静脈穿刺における駆血法・アームダウン法・温罨法が静脈怒張に及ぼす影響－血管断面積・皮膚表面からの距離・触知怒張度の比較－
KG023004	浦中桂一	胸骨圧迫中の運動-呼吸同調が圧迫深度と自覚的疲労度に及ぼす影響
KG023005	松山友子	メモリ付き駆血帯の異なる駆血圧における下肢の静脈怒張度・触知怒張度・苦痛度の比較
KG023006	浦中桂一	シリンジポンプにおける薬液更新手技が糖度変化に与える影響－4ml 充填法とクイック交換法の比較－
KG023007	松本和史	一般病棟における患者の急変前のモニタリング実施の程度と急変を予測した看護計画の有無

KG023008	竹内朋子	ハイブリッド ER システム (HERS) における看護師の役割
KG023009	新山真奈美	PSC 認証による急性期脳卒中診療の時間的指標と患者転帰の変化
KG023010	松山友子	3 横指法と腋窩法による筋肉内注射部位の後上腕回旋動脈・腋窩神経・皮膚組織厚・三角筋厚の比較
KG023011	玄順烈	医療療養型の中小規模病院の看護業務プロセスにおける業務中断の実態調査
KG023012	玄順烈	高度実践看護師を目指す子育て中の女性看護師の体験 ー仕事・家庭・自己の生活の相乗効果とタイミングをつかむ強い意思ー
KG023014	小宇田智子	腎不全モデルマウスにおける EZU の抗炎症効果と心血管および骨格筋への影響
KG023015	原口昌宏	新たな乳児胸骨圧迫法の有効性の検証ー非盲検化無作為クロスオーバー比較対照試験ー
KG023016	中島美津子	訪問看護ステーションで用いる書類の運用に関する現状調査
KG023017	竹内朋子	A 病院における婦人科腹腔鏡下手術での術後疼痛管理チームの活動実態と介入効果
KG023018	小宇田智子	EZU の摂取による慢性腎不全の予防効果および腸内細菌叢の組成に与える影響
KG023019	田中留伊	診療看護師による看護師への教育的かかわりの現状と課題
KG023020	新山真奈美	手術室看護師の外見が安心感に与える影響ー高齢患者とのラポール形成に焦点を当ててー
KG023021	高橋智子	経鼻経管栄養チューブの閉塞予防に対する看護師の認識と行動の実態
KG023022	忠雅之	総合内科チームにおける診療看護師 (NP) の診療に及ぼす効果ー在院日数との関連についての後方視的研究ー
KG023023	田中留伊	急性心不全患者における栄養障害と短期予後の検討
KG023024	中島美津子	熟練訪問看護師の職業継続についてー介護保険制度導入時より就業し続けている看護師に焦点を当ててー

【高度実践助産コース】(助産師免許プログラム・助産師プログラム)

1. 教育方針

専門性の高い実践力を備え、女性とその家族の生涯にわたる健康を支援できる自律した助産師の育成を目的としている。特に周産期における病院内外の助産システムに対応できる専門性の高い助産師の育成を目指す。

2. 科目名

1) 助産学概論 1 年次前期

(1) 担当教員 渡邊香

(2) 教育内容

助産の基本概念と歴史的変遷から概説し、女性を取り巻く社会背景を認識し、助産師の責務と社会変化の中で期待される役割の重要性、さらに助産師活動に取り組む姿勢と、それらを支えるために必要な看護政策を含め系統的に教授した。次年度も女性を取り巻く課題、母子保健の課題、医療政策・看護政策について講義とディスカッションを織り交ぜながら助産師としてのアイデンティティを獲得する動機づけとなるよう講義を工夫する。

2) 生殖機能学(正常・異常) 1 年次前期

(1) 担当教員 佐藤いずみ、山下博、大野暁子、真壁健、栗原みずき、家谷佳那

(2) 教育内容

女性生殖器の解剖・生理、女性のライフサイクルを通じた性と生殖の健康問題、疾患及び異常に関する基礎的な知識の理解を深める講義を行った。また、助産師国家試験にて出題が増加している妊娠期の異常と婦人科疾患について頻出問題に関する講義内容を強化した。

3) 助産薬理学特論 1 年次前期

(1) 担当教員 佐藤いずみ、三浦寄子、中島研、伊藤直樹

(2) 教育内容

薬理学の総論と基礎、妊産褥婦を対象とした和漢薬物の効用、副作用、併用禁忌、拮抗作用、投与方法、服用方法等について情報検索エンジンも含めて解説し、妊婦や授乳婦における催奇形性、胎児毒性、授乳中の安全性について薬物使用上の管理および留意点について理解を深め、各自が活用できるように講義をおこなった。近年の増加している無痛分娩については麻酔薬等に関する基礎知識を教授した。

4) 助産栄養学特論 1 年次通年

(1) 担当教員 佐藤いずみ、北島幸枝

(2) 教育内容

健康な女性の心と身体作りのための食事のあり方や出産適齢期の食生活の現状と課題を通して、健康な女性の身体作りに必要な栄養管理の知識を習得できるように講義をした。さらに、日本人の食事摂取基準を基本に、栄養アセスメントと栄養管理方法、人工栄養の特性と問題点、補完食の進め方について教授した。調理演習では減塩食の工夫、補完食の調理、調乳を行った。

5) 家族社会学特論 1 年次通年

(1) 担当教員 渡邊香、松島紀子

(2) 教育内容

家族社会学についての基礎的な概念や内容を学び、現代の家族問題への理解と社会的対応について整理し、共働き家族、高齢者介護、児童虐待、ドメスティックバイオレンスなど

の現代の家族問題について理解を深めた。さらにリプロダクティブ・ヘルス/ライツに影響を及ぼす要因について学び、家族社会学の視点からエンパワーメントを進める方策について講義を行った。

6) 助産フィジカルアセスメント学演習 1年次通年

(1) 担当教員 佐藤いずみ、戸津有美子、服部純尚、松井哲、浅井百合絵、勝山なおみ

(2) 教育内容

妊娠・分娩・産褥期を通して変化する女性の身体を理解する為に、フィジカルイグザミネーションの技術を用いて周産期の女性の全身の包括的アセスメント、正常異常の判断の実際について演習を通して教授した。また、乳がんの基礎知識、診察技術についての講義・演習を行った。

7) 助産臨床推論 2年次前期

(1) 担当教員 佐藤いずみ、梅原永能

(2) 教育内容

助産における臨床推論の意義を理解した上で自立的な判断スキルを持つ助産師の育成を目的に、講義演習を行った。臨床推論の意義、臨床推論における思考のプロセス、臨床推論事例の展開（妊娠期から産褥期）を繰り返し行い臨床推論を用いた考え方のトレーニングを行った。さらに、妊娠中の異常を想定した具体的事例に対しチームとして臨床推論を行い、思考の過程を明確にしながらケア提供まで自立して行う演習を行った。

8) 妊娠期診断・技術学 1年次通年

(1) 担当教員 佐藤いずみ、和田誠司、戸津有美子、小嶋奈都子

(2) 教育内容

妊娠期における女性の心身の生理的变化と妊娠期に起こりやすい異常、胎児の成長発達に関する基本的知識から胎児診断と胎児治療に関する知識まで幅広く知識を習得できるよう講義および演習を行った。

9) 分娩期診断・技術学 1年次通年

(1) 担当教員 渡邊香、服部純尚

(2) 教育内容

分娩期における女性と胎児の生理のプロセスと生理的状态からの逸脱を診断する知識と分娩介助法と助産ケアの技術を習得する目的で、講義・演習を実施した。更に、産痛緩和法など女性に寄り添う助産実践力の向上に力を注ぎ、分娩期における助産師の判断能力と技を考察できるよう工夫した。高度実践助産を目標に、異常産婦の管理とケアを取り入れ、近年増加するハイリスク産婦の管理の知識獲得ができるよう、講義演習を展開した。

10) 産褥期診断・技術学 1年次通年

(1) 担当教員 戸津有美子、渡邊香、小林浩一、浅井百合絵

(2) 教育内容

産褥期女性の身体的・心理的・社会的変化に応じた助産診断とケアを行うための基本的な知識と技術についての講義、演習を行った。近年、子ども虐待の予防対策が求められていることから、産後うつなどの基本的知識と周産期や地域での対応について講義を強化した。母乳育児支援として、乳房管理の理論と乳房ケアの基本技術の演習を行った。次年度は具体的な産褥期の女性のケアをできるよう講義演習を充実させる。

11) 新生児期診断・技術学 1年次通年

(1) 担当教員 小嶋奈都子、加部一彦、戸津有美子、勝山なおみ

(2) 教育内容

新生児の生理、発育、生理機能・運動機能・精神機能の発達について知識を習得するための講義を行った。臨床で遭遇する可能性の高い新生児の異常や、ディベロップメンタルケア、NICUの看護について演習を交えて学ぶ機会を提供した。また、児の成長発達に応じた事故予防について、ディスカッションを取り入れ学びを深めた。次年度も、実践に役立つ学習になるよう、胎児期からの予測を踏まえた新生児ケアの理解を促す。

12) 助産診断・技術学演習 1年次前期

(1) 担当教員 渡邊香、馬場一憲、佐藤いずみ、朝澤恭子、戸津有美子、小嶋奈都子、鬼澤宏美、浅井百合絵、勝山なおみ、

(2) 教育内容

妊娠期～産褥期・新生児期の助産診断と助産過程の基本と展開、妊娠期の保健指導・支援、正常分娩介助法の演習、胎児心拍陣痛図による胎児診断、助産師のための超音波検査、母子の生活支援と保健指導について学んだ。

13) 実践助産学特論 1～2年次通年

(1) 担当教員 渡邊香、戸津有美子、大原玲子、臼井いづみ、武山 茂

(2) 教育内容

医学・助産モデルの両方の視点から助産診断・助産ケアを可能にするため、Team STEPPS、超音波検査法の基本、産科麻酔の実際、産科救急への対応、妊産婦の一時救命処置のためのBLS、新生児の救急蘇生NCPR(Aコース)の講習など、発展的・応用的な知識と技術を学習した。

14) 実践助産学演習 1～2年次通年

(1) 担当教員 小嶋奈都子、朝澤恭子、鬼澤宏美、浅井百合絵、勝山なおみ、小澤克典

(2) 教育内容

妊産褥婦のケアの充実に向けた実践的かつ、発展・応用的な内容の授業を行った。理論及び技術に関する講義に加えて、演習を多く取り入れることにより、実践力の強化に向けた学びが得られていた。次年度も、学習環境の整備及び調整を行い、受講者が興味・関心を持って積極的に学習ができるように工夫していく。

15) ウィメンズヘルス特論 1年次前期

(1) 担当教員 朝澤恭子、片岡弥恵子、小嶋奈都子

(2) 教育内容

セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、女性のライフサイクルに沿った健康問題に対する助産ケアに必要な基礎的能力を養い、女性の健康を支援するための研究・実践への理解を深め、ウィメンズヘルスにおける助産ケアを追究することを目標に展開した。思春期、成熟期、更年期にみられる健康問題、受胎調節の実地指導に必要な原理・知識・技術に関して、講義に加えてプレゼンテーションとディスカッションにて学習を進めた。

16) ウィメンズヘルス演習 1～2年次通年

(1) 担当教員 佐藤いずみ、朝澤恭子、戸津有美子、小嶋奈都子、浅井百合絵、勝山なおみ、鬼澤宏美

(2) 教育内容

思春期、成熟期、更年期、老年期、周産期のいずれか特定のライフステージにおいてヘルスケアニーズをもつ女性への健康教育が実施できる事を目的に、健康教育の概論を講義にて教授した。1年次では集団指導の実施に向け出産準備教育への基本的知識の教授及び

出産準備教育の指導案作成、2年次は、学部生の見学参加のもと出産準備教育を行った。

17) 不妊症・遺伝看護学特論 1年次前期

(1) 担当教員 朝澤恭子、小澤伸晃

(2) 教育内容

遺伝看護の対象となる家族性腫瘍、先天異常、神経難病等の患者および生殖医療の対象者と家族に対するアセスメントやケアを理解することを前提に展開した。主な遺伝性疾患の遺伝形式、クライアントが抱える課題と必要なケア、遺伝的な課題を持つ人々へのアセスメントの視点、不妊症の検査および治療、クライアントが抱える課題とケアに関して講義を進めた。不妊治療を受ける人々へのアセスメントの視点を理解できるよう展開した。

18) 助産管理学特論 1年次通年

(1) 担当教員 渡邊香、野町寧都、市島美保、平井晶子、岡本登美子、宮下美代子

(2) 教育内容

周産期における具体的な事故・判例から周産期のリスク管理を考察した。組織管理の基本概念とマネジメントの基本的考え方をドラッカー理論から学び、施設助産管理への応用を試みる講義をした。マーケティング理論、医療経済、関連法規及び周産期医療システム、目標管理、総合病院での助産師外来と院内助産システムの実際について、講義及びディスカッション形式で進めた。助産院での講義も行い、助産所の運営の実際と経営を学んだ。

19) 地域助産活動論 1年次後期

(1) 担当教員 渡邊香、土屋清志、宮下美代子、氷見知子、永森久美子、藤田恵理子

(2) 教育内容

助産師の開業権を生かし母子および家族のニーズに沿った地域医療・地域助産活動について講義を展開した。満足度の高い「いいお産」の実現のために、助産所におけるフリースタイル分娩の技術を演習にて学び、母乳育児支援の開業助産師による講義を組み入れるなど、多岐にわたる助産活動について体験的に学ぶ機会を取り入れた。

20) 地域母子保健学特論 1年次後期

(1) 担当教員 渡邊香、福島富士子、朝澤恭子、戸津有美子、増田理恵

(2) 教育内容

地域母子保健の現状と課題、母子保健に関わる地域診断、地域母子保健の活動の実際や産後ケアセンターの活動について講義を行った。加えて、学生が考える日本社会における母子保健の今日的課題について、現状とこれを解決するために必要だと思われる方策、地域での助産師や保健師助産師が地域で果たすべき役割について、討論し学習を深めた。

21) 地域母子保健学演習 1年次後期

(1) 担当教員 渡邊香、駒田真由子、戸津有美子、小嶋奈都子、浅井百合絵、勝山なおみ、鬼澤宏美、増田理恵

(2) 教育内容

地域母子保健が抱える今日的課題についてグループワークを通して考え、地区診断により地域特性の理解、助産師・保健師として具体的な母子保健事業を考察することができた。妊産婦や乳幼児に対するアセスメントを通して、家庭訪問や保健指導、健康相談における支援の技術も身に付けることができた。

22) 災害助産活動論 1年～2年次通年

(1) 担当教員 戸津有美子、高村ゆ希、赤井智子

(2) 教育内容

自然災害、人為的災害、混合型災害と、近年、増加する災害に対する定義、管理、根拠立法、防災体制など基礎的知識を学習し、災害時の母子に特有の課題、被災地での母子支援について学習した。具体的な助産師の活動および支援策についてディスカッションすることで、各自が平時からの備えを自分ごととして主体的に学習をすることができた。

23) 国際助産学特論 1年～2年次通年

(1) 担当教員 渡邊香、佐藤いずみ、戸津有美子、勝山なおみ

(2) 教育内容

世界の助産実践と助産教育、母子保健における助産師の役割と実践活動、世界の産育習俗を社会・文化的背景から考察しながら、海外における国際助産活動の実際を学んだ。更に、学生が考える国内外における国際的な母子保健の今日的課題について、現状と必要と考える方策、助産師として果たすべき役割について、レポートにまとめて学習を深めた。

24) 助産学基礎実習 1年次前期

(1) 担当教員 渡邊香、佐藤いずみ、戸津有美子、小嶋奈都子、浅井百合絵、勝山なおみ、鬼澤宏美

(2) 教育内容

国立成育医療研究センター、国立病院機構東京医療センター、国立病院機構埼玉病院、国立病院機構相模原病院で各4週間、4施設で実習を行った。正常な妊娠・分娩・産褥・新生児期の経過をたどる対象の助産診断、分娩介助の実施、助産過程の展開を目標とした。4週間で4～6例／学生の分娩介助を実施した。

25) 助産実践力開発実習 1年次後期

(1) 担当教員 渡邊香、佐藤いずみ、戸津有美子、小嶋奈都子、浅井百合絵、勝山なおみ、鬼澤宏美

(2) 教育内容

国立成育医療研究センターで5週間、国立病院機構東京医療センターおよび国立病院機構埼玉病院で各4週間、国立病院機構相模原病院で2週間、4施設で実習を行った。分娩介助を中心として、正常経過中の妊娠・分娩・産褥・新生児期を対象に助産過程の展開と実践能力の修得をこの実習目標とした。4～5週間で2～5例／学生の分娩介助を実施できた。

26) 助産実践力発展実習 2年次前期

(1) 担当教員 渡邊香、佐藤いずみ、戸津有美子、小嶋奈都子、浅井百合絵、勝山なおみ、鬼澤宏美

(2) 教育内容

ハイリスク妊婦とハイリスク児を対象とした実習を、国立病院機構東京医療センターの産科病棟・産婦人科外来2週間、国立成育医療研究センターのNICU2日間、MFICU2日間で実習を行った。ハイリスク妊産婦および児について助産診断能力を強化し、ケアを実践することができた。次年度も同様により効果的な実習を調整する。

27) 地域助産学実習 1年次後期・2年次前期

(1) 担当教員 佐藤いずみ、渡邊香、戸津有美子、小嶋奈都子、浅井百合絵、勝山なおみ、鬼澤宏美

(2) 教育内容

稲田助産院、さくらバース、とわ助産院、みやした助産院、森重助産院、矢島助産院の6施設の助産院で実習をした。保健所実習は、品川区、台東区の各保健センターで実施し

た。地域助産学実習のねらいとして、助産師の役割、母子に関わる姿勢の根源や助産ケアについて、6 週間の期間で、実践を通じて知識と技術を習得した。次年度も同様により効果的な実習を調整する。

28) 医療倫理特論 1 年次後期

(1) 担当教員 手島恵

(2) 教育内容

高度実践看護を提供する際に求められる倫理的実践の基盤として必要な知識を概説した。また、各コースの看護職が実践を行う中で直面した特徴的な事例を取り上げ、臨床倫理の4分割法等の理論を援用しながら検討・考察を行った。その上で、各自が実践の際に直面した倫理的課題を事例としてまとめ、コースごとの小グループで当事者や患者にとって最善の方策について検討し発表・共有を行った。次年度は各コースの専門的視点を活かした検討ができるよう工夫したい。

29) ラボラトリー・メソッド特論 1 年次前期

(1) 担当教員 小宇田智子、明石眞言、小野孝二

(2) 教育内容

ヒトの健康像を理解するうえで必要な医学・生物学の知識を得るための手法を指導した。臨床現場で使われている手法や最新の科学研究で使われている手法を用いて、個体・組織・遺伝子および分子レベルでの生命現象について理解できるような授業の工夫をした。

来年度も、最新の科学研究で使用される手法について、その原理や利用方法などを概説し、生命現象について科学的に正しく理解できるように工夫する。

30) 看護教育学特論 1 年次後期

(1) 担当教員 上國料美香、浦中桂一

(2) 教育内容

今年度は、看護職養成に関わる教育制度の理解に加え、高度実践看護職として教育的役割を果たすために必要な教育原理・方法の基礎知識について、院生によるプレゼンテーションを行った。授業設計の実際では、各自が選択した授業テーマについて指導計画・指導案を作成し、模擬授業を展開するとともに他者・自己評価を踏まえた今後の課題をレポートにまとめた。次年度は、指導案作成過程における各自の課題の検討を充実させたい。

31) 保健統計学 1 年次後期

(1) 担当教員 浦中桂一、原口昌宏

(2) 教育内容

研究論文の講読や分析の実施において必要な統計学の基本的な性質や考え方を理解し、統計ソフトを用いたデータ分析の統計手法を学ぶことを主な目標とした。基本的な統計解析についてグループで調べ発表とディスカッション形式で一部展開した。既存の演習データを用いて、単変量解析および回帰分析について統計ソフトの実践演習も実施した。今後は、ディスカッションがより活発になるような授業内容・環境の構築が必要である。

32) 研究特論 1 年次前期

(1) 担当教員 手島 恵、小野孝二、田中留伊、竹内朋子、上國料美香、浦中桂一、小宇田智子

(2) 教育内容

看護研究における初歩的な研究テーマの設定法、データ収集法、解析法、倫理上の配慮などについて具体例を示しながら解説した。本来の研究はどういうものであるかを教授し、ま

た、研究成果を学会あるいは学術誌に発表するためのプレゼンテーションおよび論文作成に関する基本的な手法について習得できた。

33) EBPM 探究論 1 年次前期

(1) 担当教員 朝澤恭子、小嶋奈都子

(2) 教育内容

周産期女性の問題・疑問を定式化し、最適な文献を検索し、PICO を用いて批判的吟味を行った。助産領域の RCT 論文を用いて PICO、ランダム割り付け、ベースラインの同等確認、Outcome への反映、ITT 解析、脱落率、マスキング、結果の評価といった手順でクリティークを行い、エビデンスに基づいた結果の理解と批判的吟味を修得した。次年度も研究の学修に活かせるよう、助産領域の RCT 論文を用いて実施する。

34) 高度実践助産学研究 1～2 年次通年

(1) 担当教員 渡邊香、朝澤恭子、佐藤いずみ、戸津有美子、小嶋奈都子

(2) 教育内容

一人ひとりの院生が、個別の研究課題を設定し、関連情報の収集、研究計画の立案、研究実施、研究成果の発表に至る、研究全般にわたるプロセスを担当教員の助言・指導を受けながら実施した。論文の執筆、発表会においては抄録やスライドの準備を行い、成果を論文としてまとめる力、プレゼンテーション能力を習得できた。

【研究】

1. 課題研究

高度実践助産学研究：高度実践助産コース（助産師免許取得コース）

学生	指導教員	研究課題
KG123001	渡邊教授	母親の妊娠中における内服薬・サプリメント・嗜好品の摂取に関する不安の関連要因
KG123002	佐藤准教授	女性を中心としたバースレビューの探求
KG123003	朝澤准教授	不妊治療施設の看護職者における意思決定支援力および看護役割機能と属性の関連
KG123004	朝澤准教授	首都圏の未就学児の母親における育児不安と育児情報源の関連
KG123005	朝澤准教授	双生児を育児中の親における精神健康度と抑うつ状態の関連
KG123006	佐藤准教授	働く母親の母子関係構築：母子相互作用に着目して

【高度実践公衆衛生看護コース】

1. 教育方針

本コースでは、理論や実践等を通して、複雑多様化している健康課題や健康危機に対応できる能力を養う。また地域特性を的確に把握し、ヘルスリテラシーやソーシャル・キャピタル等を高められる保健師育成を目指す。

2. 科目名

1) 公衆衛生看護学概論 1 年次前期

(1) 担当教員 大越扶貴、駒田真由子

(2) 教育内容

公衆衛生看護学の基本的な考え方および地域における看護活動の場と必要性について理解するとともに、保健師という職種に対する理解と関心を醸成しそのあり方を探求することを目的とした。講義は、公衆衛生看護の活動理念や歴史的背景を踏まえ、その活動が職業倫理を前提に法律や政策、理論等に基づいている内容とした。

次年度は、公衆衛生看護活動のあり方が探求できるよう先駆的活動事例を含めるなど工夫を図りたい。

2) コミュニティアセスメント論 1 年次前期

(1) 担当教員 駒田真由子

(2) 教育内容

地域診断に用いる理論の理解と現状の課題把握をするとともに、コミュニティーアズパートナーモデルを用い、地域診断の基本および方法を学ぶことを目的とした。保健師活動に必要とされる地域住民の健康や生活状況等、潜在・顕在的なニーズを把握するための情報収集、アセスメント・分析、課題の明確化と課題解決方法などを中心に講義および一部演習を行った。

次年度は今年度同様、本科目とコミュニティアセスメント演習の科目間の連携を充実させる。

3) 公衆衛生看護活動論 1 年次前期

(1) 担当教員 大越扶貴、駒田真由子

(2) 教育内容

地域で生活する個人・家族・集団などの様々な対象者への支援方法(相談面接、家庭訪問等)について援用できる理論を用い、演習を通して理解を深めることを目的とした。今年度は問題のない新生児訪問事例を扱い、初回訪問や継続訪問のロールプレイを行った。

本科目はカリキュラム改正により新設された。次年度も実際の保健師活動を視野に入れ、ハイリスク母子事例についての相談・訪問の展開演習を含めていきたい。

4) 地域成人・高齢者保健論 1 年次前期

(1) 担当教員 大越扶貴、増田理恵

(2) 教育内容

地域で生活する成人、高齢者の個人・家族・集団への支援について、施策の変遷を通してその必要性を学び、事例等を用いながら支援の実際について学ぶことを目的とした。地域包括支援センターの保健師をゲストに迎え講義を通して支援の方法や技術についてより具体的に学んだ。

本科目はカリキュラム改正により新設された。次年度は今年度の実習における当該科目内容過不足を検証しながら講義内容の改善を図りたい。

5) 地域精神保健論 1 年次前期

(1) 担当教員 大越扶貴

(2) 教育内容

地域における精神障害のある人々への支援方法(相談面接、家庭訪問、ピア活動等)について援用できる理論を用い、演習を通して理解を深めることを目的とした。ペーパー事例は相談面接か

ら初回訪問までをロールプレイを通して学んだ。また現行の施策の動向を踏まえながら地域定着および包括的マネジメントについて理解を深めた。

本科目はカリキュラム改正により新設された。次年度は今年度同様演習を中心に科目の充実を図りたい。

6) 公衆衛生危機管理論 1 年次前期

(1) 担当教員 明石眞言

(2) 教育内容

自然災害や新興・再興感染症対策に関する法制度や動向について理解し、保健師としての役割、支援方法を学んでもらうことを目的に講義を行った。災害時、新興感染症の流行時、虐待等をテーマとして、健康危機管理のシステムや対象者への支援方法を取り扱った。次年度も保健師を取り巻く状況の変化を考慮しつつ、学ぶ範囲を広げていきたい。

7) 住まいづくり論 1 年次前期

(1) 担当教員 大越扶貴

(2) 教育内容

WHO や健康日本 21(第二次)において着目されている環境に焦点を当てた健康増進・疾病予防のための住環境の視点や方策を得ることを目的とした。スマートシティの見学や見取り図を用いた住環境のアセスメントを通して、健康と住まいについて、ミクロ・マクロ的観点について理解を深めた。次年度は健康と住まいとの関連について、より最新の知見を踏まえた講義としていきたい。

8) 健康教育方法論 1 年次前期

(1) 担当教員 増田理恵

(2) 教育内容

健康行動に関する理論について歴史的な理論の改変や、新しい理論に至るまで、対象者の自己効力感を効果的かつ持続的に高めるための各種教育スキルを提供した。

次年度は、実際の健康教育の事例を交えて、より現場的視点を涵養できるように工夫していきたい。

9) 疾病予防看護学特論・自立支援教育特論 I 1 年次 通年

(1) 担当教員 明石眞言

(2) 教育内容

海外の原著研究論文を自ら辞書をひき触れることで、研究論文の構造、内容の理解を深めることを目的とし、研究論文の紹介と内容の議論を行う授業である。学生が自分の能力に合わせて読み、プレゼン資料を作成、内容の理解に努めつつ論文紹介を行ってもらった。研究の構造やデザイン、分析など総合的に研究力を学ぶ機会となった。次年度以降も学生の能力に合わせて到達レベルを考慮しながら継続的に実施していく。

10) 自立支援教育特論演習 I 1 年次前期

(1) 担当教員 駒田真由子、大越扶貴

(2) 教育内容

住民のヘルスリテラシーを高め、地域のソーシャル・キャピタルを高めるためのアプローチについて実践的に理解を深めることを目的とした。区内社会福祉協議会の協力を得、住民の支えあい活動の場への継続的参加を通して健康に対する意識などを把握し介入方法について検討し、実際の住民への健康教育を通して一部実践した。

次年度も社会福祉協議会と連携し、他職種の理解を深めつつ、健康に関わる住民へのアプローチについて実践的理解を推進する。

11) 公衆衛生関連法規 1 年次後期

(1) 担当教員 金子あけみ

(2) 教育内容

日本国憲法を始めとして、公衆衛生看護の分野に関連した法律や法制度について、歴史的な経緯及び社会状況等を踏まえながら、保健師として地域づくりを推進するために必要な法制度に関する知識を深めた。授業は一定の枠組みに基づき、プレゼンテーションとディスカッションによるアクティブラーニングとし、最終的に保健医療福祉の法制度全体を俯瞰できるよう図表の作成を試みた。次年度もアクティブラーニングの実施に取り組む。

12) 行政論 1 年次後期

(1) 担当教員 金子あけみ、非常勤講師

(2) 教育内容

公衆衛生看護を実践する基盤である行政の仕組みについて、地方自治制度や財政制度について学習し、将来の公衆衛生看護に係る政策形成へ参与できる能力を養うことを目的としている。ニューパブリックマネジメント等の政策立案の理論動向や行政計画論、住民参加と公務員の役割についても概説し、実際に政策の作り方を演習として実施した。次年度も住民に寄り添える保健師の能力開発を目指し、アクティブラーニングを実施していく。

13) 産業保健学 1 年次後期

(1) 担当教員 明石眞言

(2) 教育内容

産業の場で就労している対象の状況を理解し、健康増進のための活動や起こりうる健康障害を予見し対応できる産業保健活動の基礎知識と技術を習得することを目的に講義を行った。労働基準法に労働安全衛生法に関しては重点的に行った。

現在講義中心となっているため、次年度は演習も取り入れた授業展開を行っていきたい。

14) 学校保健学 1 年次後期

(1) 担当教員 明石眞言

(2) 教育内容

就学している対象(児童・生徒・学生)の状況を理解し、健康増進のための活動や起こりうる健康障害を予見し対応できる学校保健活動の基礎知識と技術を習得することを目的に講義を行った。特に文部科学省、厚生労働省や内閣府から公表されるデータの閲覧を重視した。

次年度は学生の理解度がより高まるように、学校保健の最新のデータ見方を視野に入れる。

15) 医療保健疫学 1 年時後期

(1) 担当教員 駒田真由子

(2) 教育内容

集団における疾病や健康現象を評価するために必要な疫学の基礎を学び、公衆衛生看護の実践や公衆衛生看護研究において疫学の考え方、手法を活用することを理解してもらう目的で講義を行った。学生は研究のデザインやバイアス、交互作用の考え方を具体的事例とともに学ぶ機会となった。引き続き、学生が疫学的思考を身につけられるような授業展開をしていきたい。

16) 医療保健疫学演習 1 年次後期

(1) 担当教員 駒田真由子

(2) 教育内容

医療保健疫学で学んだ疫学の知識を応用し、研究デザインや交絡因子の調整方法について専門の教科書の輪読を通して理解を深めた。公衆衛生看護研究の実践に応用できる能力を養う目的で行った。この時期、学生は統計や疫学などの講義を受けて研究デザイン、分析方法の理解が深まってきているため、次年度も学生の理解度や能力に合わせて、講義・解説をしつつ学生の資

料作成、発表、質疑応答が活発に行えることを目指して行いたい。

17) 国際保健学 1 年次後期

(1) 担当教員 駒田真由子、森山潤

(2) 教育内容

国際保健政策についての理解を促し、国際機関の状況・国際保健の担い手に関する講義をしたうえで、実際の国際保健活動について臨場感のある講義を提供することを目指した。次年度も、引き続き SDGs について学び保健師の視点からの国際保健という点を考慮しつつ、国際保健分野の状況の変化に対応した講義を展開していく。

18) コミュニティアセスメント演習 1 年次後期

(1) 担当教員 駒田真由子

(2) 教育内容

コミュニティアセスメント論で学んだ知識、技術を応用して地域診断を実践する。様々な手法で入手したデータを基に、地域住民の健康にかかわる問題・課題とその要因を分析し、地域の生活や健康課題を解決するための活動計画とその評価、施策化の視点を演習を通して学ぶことを目的に行った。今年度は実際に調べたことを公衆衛生看護学実習Ⅰに活かすため、次年度も課題の指導を丁寧に行い、発表形式を工夫して実施したい。

19) 公衆衛生看護学実習Ⅰ 1 年次後期

(1) 担当教員 駒田真由子

(2) 今年度は碑文谷保健センターで行われた最後の実習となった。実習地域の健康課題を把握し、参加事業と連動させるなど保健センター等で取り組まれている事業(施策化も含む)や実践活動との関連について考察することを目的とした。また、個人・家族・集団の支援を通して保健師として要請される技術を習得することを目指した。

次年度も積極的に保健所の実習指導者と連携・調整していく必要性を感じた。

20) 公衆衛生看護学実習Ⅱ 1 年次後期

(1) 担当教員 明石眞言、駒田真由子、森山潤

(2) 教育内容

職場における産業保健活動の実際と産業保健活動の仕組みや産業看護職の役割について実践的に学ぶことを目的とした。労働者・家族の特性を理解し、健康課題の把握と援助の方法、必要な連携・協働・ネットワークづくり・職場巡視等について理解することを目指して実習となった。

次年度も限られた時間で産業保健の実際が学べるように工夫をしていきたい。

21) 疾病予防看護学特論・自立支援教育特論Ⅱ 2 年次 通年

(1) 担当教員 明石眞言

(2) 教育内容

海外研究論文に触れることで、研究論文の構造、内容の理解を深めることを目的とし、研究論文の紹介と内容の議論を行う授業である。学生が自分の能力に合わせて和訳を行い、資料を作成、内容の理解に努めつつ論文紹介を行ってもらった。研究の構造やデザイン、分析など総合的に研究力を学ぶ機会となった。次年度以降も学生の能力に合わせて到達レベルを考慮しながら継続的に実施していく。

22) 自立支援教育特論演習Ⅱ 2 年次前期

(1) 担当教員 駒田真由子

(2) 教育内容

ひがしが丘保健室便りの作成を通じて、保健事業のプランニング、コーディネーション、マネジメン

トの能力の一端を養うことを目的とした。今年度は目黒区の訪問看護ステーションの代表にインタビューを実施した。今回も社会福祉協議会の協力もあり、多くの配布数となった。アンケートによるフィードバックもあり学生には今後につなげるよい学びとなった。次年度も引き続き、科目で設定した目標が達成できるように演習を計画的に行っていきたい。

23) 地域包括ケア実習 2年次前期

担当教員 明石眞言、駒田真由子

(1) 教育内容

地域包括支援センターでの実習を通して、地域包括支援センターの役割とそこで働く保健師の役割を学び、地域特性に応じた地域包括ケアシステム構築のために必要な視点を考察した。次年度も引き続き、大学院としての地域包括支援センターでの実習である点を踏まえて、積極性を促し、困難事例のケアマネジメントのような発展的内容にも踏み込んで実習できるように工夫をしていきたい。

24) 地域診療所実習 2年前期

(1) 担当教員 駒田真由子

(2) 教育内容

診療所での実習を通して、地域で療養生活をしている住民の現状を認識し、そこから地域医療で果たすべき保健師の役割を考察する目的で行った。クリニック以外でも訪問診療などに同行し、地域医療に携わる医師・看護職の仕事について理解ができていた。次年度以降も、引き続き地域包括ケアシステムの中の診療所の役割や、保健師と診療所との連携について、イメージできるような実習を提供していきたい。

25) 地域母子保健学演習 1年次後期

(1) 担当教員 渡邊香、駒田真由子、戸津有美子、小嶋奈都子、浅井百合絵、勝山なおみ、鬼澤宏美、増田理恵

(2) 教育内容

地域母子保健が抱える今日的課題についてグループワークを通して考え、地区診断により地域特性の理解、助産師・保健師として具体的な母子保健事業を考察することができた。妊産婦や乳幼児に対するアセスメントを通して、家庭訪問や保健指導、健康相談における支援の技術も身に付けることができた。

26) 保健統計学 1年次後期

(1) 担当教員 浦中桂一、原口昌宏

(2) 教育内容

研究論文の講読や分析の実施において必要な統計学の基本的な性質や考え方を理解し、統計ソフトを用いたデータ分析の統計手法を学ぶことを主な目標とした。基本的な統計解析についてグループで調べ発表とディスカッション形式で一部展開した。既存の演習データを用いて、単変量解析および回帰分析について統計ソフトの実践演習も実施した。今後は、ディスカッションがより活発になるような授業内容・環境の構築が必要である。

27) 保健医療福祉システム特論 1年次後期

(1) 担当教員 金子あけみ、清水美智夫、非常勤講師

(2) 教育内容

保健医療福祉分野における法制度及び政策決定プロセスを学習するため、社会保障システムを主軸に様々な統計データを用いて解説した。これらの知識を踏まえ、学生個々の関心のある保健医療福祉領域の政策提案のプレゼンテーションを実施した。本年度から看護科学コース(看護管理)と一部合同で授業を行ったことにより、学生間の意見交換が活発化し、効果的な学習となった。次年度も学生の視野の拡大、思考の深化を目指したい。

28) 医療倫理特論 1 年次前期

(1) 担当教員 手島恵

(2) 教育内容

高度実践看護を提供する際に求められる倫理的実践の基盤として必要な知識を概説した。また、各コースの看護職が実践を行う中で直面した特徴的な事例を取り上げ、臨床倫理の 4 分割法等の理論を援用しながら検討・考察を行った。その上で、各自が実践の際に直面した倫理的課題を事例としてまとめ、コースごとの小グループで当事者や患者にとって最善の方策について検討し発表・共有を行った。次年度は各コースの専門的視点を活かした検討ができるよう工夫したい。

29) ラボラトリー・メソッド特論 1 年次前期

(1) 担当教員 小宇田智子、明石眞言、小野孝二

(2) 教育内容

ヒトの健康像を理解するうえで必要な医学・生物学の知識を得るための手法を指導した。臨床現場で使われている手法や最新の科学研究で使われている手法を用いて、個体・組織・遺伝子および分子レベルでの生命現象について理解できるような授業の工夫をした。来年度も、最新の科学研究で使用される手法について、その原理や利用方法などを概説し、生命現象について科学的に正しく理解できるように工夫する。

30) 地域母子保健学特論 1 年次後期

(1) 担当教員 渡邊香、福島富士子、朝澤恭子、戸津有美子、増田理恵

(2) 教育内容

地域母子保健の現状と課題、母子保健に関わる地域診断、地域母子保健の活動の実際や産後ケアセンターの活動について講義を行った。加えて、学生が考える日本社会における母子保健の今日的課題について、現状とこれを解決するために必要だと思われる方策、地域での助産師や保健師助産師が地域で果たすべき役割について、討論し学習を深めた。

31) 研究特論 1 年次前期

(1) 担当教員 手島 恵、小野孝二、田中留伊、竹内朋子、上國料美香、浦中桂一、小宇田智子

(2) 教育内容

看護研究における初歩的な研究テーマの設定法、データ収集法、解析法、倫理上の配慮などについて具体例を示しながら解説した。本来の研究はどういうものであるかを教授し、また、研究成果を学会あるいは学術誌に発表するためのプレゼンテーションおよび論文作成に関する基本的な手法について習得できた。

32) 高度実践公衆衛生看護学研究 1 年～2 年次通年

(1) 担当教員 明石眞言 駒田真由子

(2) 教育内容

院生が関心のある個別の研究課題について文献検討をし、研究目的を明確にした後で研究計画の大枠を立案、1 年後期に中間発表を行う準備・実施の支援を行った。その後は研究目的に従って具体的な研究方法を検討し、倫理申請の準備を行っている。各授業・実習との両立が課題であったものの、順調に進行している。

33) 課題研究 1～2 年次通年

学生	指導教員	研究課題
----	------	------

KG423001	明石教授	COVID-19 が若年労働者の精神疾患に与える影響とその要因の分析
KG423002	明石教授	女子大学生における梅毒の知識と意識に関する調査

【看護科学コース(看護管理者プログラム)】

1. 教育方針

本プログラムは、看護管理上の課題に対してエビデンスに基づいて体系的に問題解決する能力、ならびにエビデンスを創出する研究能力を養成し、さらには病院経営や政策提言にも参画できる高度なマネジメント能力を持つ看護管理者の育成を目指している。

2. 科目名

1) 組織管理学:1 年次前期

(1) 担当教員 竹内朋子、手島恵

(2) 教育内容

組織デザインと組織運営、組織における倫理に関する2部構成とし、いずれも講義をふまえたアクティブラーニングを実施した。第1部では理論にもとづいて組織分析し、組織開発・組織改革計画を立案する演習を取り入れた。第2部では、組織管理における看護管理者の役割をグローバルな観点からディスカッションした。

次年度も、アクティブラーニングを活用して組織管理を体系的に学習する講義を目指したい。

2) 看護管理学特論(人材管理):1 年次前期

(1) 担当教員 竹内朋子、手島恵、山西文子

(2) 教育内容

看護管理者に必要な労使関連法規、人事システム、賃金体系等について発展的に学習し、人的資源を管理するうえで求められる看護管理者のコンピテンシー、リーダーシップ等について講義した。演習として、組織の人材管理について分析し、看護管理者としての役割と課題を抽出した。

次年度も、履修生の看護管理者としての実績を活用して学習する講義を目指したい。

3) 看護管理学特論(資源管理) 1 年次前期

(1) 担当教員 竹内朋子、田中徹、大武喜勝

(2) 教育内容

看護管理者として病院経営に参画するうえで必要となる基礎知識を修得できるような講義を実施した。医療経済・経営学を学習し、医療福祉経済、財務管理、情報管理をはじめ、国立病院機構の経営に関する講義・演習を通して、医療福祉における経営の現状や今後の改革について議論した。

次年度も、看護管理者としての経営・財務管理能力を向上できるような講義を目指したい。

4) 看護管理学特論(質管理) 1年次前期

(1) 担当教員 山西文子

(2) 教育内容

看護の質管理、組織の安全管理の2部構成とし、第1部では看護の質管理に関する現状と課題について、第2部では医療安全に関する関連法規やガイドライン、災害医療体制を含む看護組織の安全管理に関して講義した。

次年度も、看護管理者として組織の医療安全文化の醸成に貢献できるような講義を目指したい。

5) 特別研究 1・2年次通年

(1) 担当教員 竹内朋子、福島富士子

(2) 教育内容

1年次では、研究課題領域に関する文献検討やゼミナールを通して、研究課題を明確化し、具体的な研究計画を立案した。2年次では、データ収集、分析を経て論文を執筆し、特別研究審査会にて評価を実施した。各年次ともセメスターごとに中間発表会を開催し、研究テーマに関するレビューや研究計画について発表し、ディスカッションを通してさらに研究内容を吟味した。

次年度も、看護管理者としての研究能力の向上ならびに特別研究論文として看護管理学における有益な研究成果の創出を目指す。

学籍番号	指導教員	研究課題
KG523001	福島富士子	勤務表作成と看護師長の疲労度との関連 ～AI活用を目指して～
KG523002	福島富士子	特定行為研修修了生を複数配置している病棟の特徴と要因分析 －看護師長を対象とした横断的研究－
KG523003	福島富士子	インシデント発生後の安全管理体制の再構築に向けた副看護師長の行動プロセス －小児専門病院の病棟の副看護師長に焦点をあてて

6) 研究特論 1年次前期

(1) 担当教員

手島 恵、小野孝二、田中留伊、竹内朋子、上國料美香、浦中桂一、小宇田智子

(2) 教育内容

看護研究における初歩的な研究テーマの設定法、データ収集法、解析法、倫理上の配慮などについて具体例を示しながら解説した。本来の研究はどういうものであるかを教授し、また、研究成果を学会あるいは学術誌に発表するためのプレゼンテーションおよび論文作成に関する基本的な手法について習得できた。

7) 看護理論 1 年次前期

(1) 担当教員

高橋智子、松山友子

(2) 教育内容

看護学の発展の中で、看護理論がどのような経緯で開発されてきたかを概観し、看護理論を評価する枠組みを用いて主要な看護理論の特徴と限界について検討した。また、自らの経験と照らし合わせて看護実践・教育・研究における看護理論の適用と課題について、院生によるプレゼンテーションを実施し、レポートにまとめた。次年度は理論評価、事例の精選を行い、プレゼンテーション内容を吟味し、内容の充実を図ることを課題としたい。

8) 医療倫理特論 1 年次前期

(1) 担当教員 手島恵

(2) 教育内容

高度実践看護を提供する際に求められる倫理的実践の基盤として必要な知識を概説した。また、各コースの看護職が実践を行う中で直面した特徴的な事例を取り上げ、臨床倫理の4分割法等の理論を援用しながら検討・考察を行った。その上で、各自が実践の際に直面した倫理的課題を事例としてまとめ、コースごとの小グループで当事者や患者にとって最善の方策について検討し発表・共有を行った。次年度は各コースの専門的視点を活かした検討ができるよう工夫したい。

9) 看護政策特論 1 年次後期

(1) 担当教員 金子あけみ

(2) 教育内容

看護を取り巻く課題について明確にし、課題解決に向けた制度・政策プロセスについて学ぶことを目的としている。学生はこれまで臨床での経験しかないため、臨床経験から政策課題・問題点を抽出させることから始め、プログラム評価の観点から政策化するために必要な情報収集及び整理、論理の構築について教授した。次年度も学生の能力、経験等を踏まえた上で、実践知に結び付けられるよう教育内容・方法を吟味していきたい。

10) ヘルスケアシステム特論 1 年次後期

(1) 担当教員 金子あけみ、清水美智夫、非常勤講師

(2) 教育内容

保健医療福祉分野における法制度及び政策決定プロセスを学習するため、社会保障システムを主軸に様々な統計データ、理論等を用いて解説した。これらの知識を踏まえ、学生個々の関心のある保健医療福祉領域の政策提案のプレゼンテーションを選択学生全員で実施した。政策に関する関心が高まり、また多様な考え方、問題意識を醸成することができたと考える。

11) 看護教育学特論 I 1 年次前期

(1) 担当教員 上國料美香

(2) 教育内容

看護職者が教育的機能を果たす基盤となる教育学、看護教育学の知識の修得を目的とし、課題図書 of 購読と学習の成果の発表、討議を中心とする演習形式の授業を行った。学生は、学習内容と看護実践者、看護管理者それぞれの経験を照らし合わせて理解を深めることができた。次年度は、学生が、課題図書の理解に直結するような目的的な討議ができるよう課題の提出を工夫した授業を展開したい。

12) 臨床看護学演習 I 1 年次通年

(1) 担当教員 新山真奈美

(2) 教育内容

各院生の関心のある看護管理に関するテーマから、チュートリアル形式の **Problem-Based Learning** の演習を通して、看護管理における課題を明確にし、課題解決のための論理的思考力および実践力を修得できるように進めた。またフィールドワークも取り入れ、多角的な視点から課題を捉えることで、自己課題が明確となっていた。次年度も、院生の学修進度や意向に併せて効果的な学修となるように進めていく。

13) 保健統計学

(1) 担当教員 浦中桂一、原口昌宏(2) 教育内容

研究論文の講読や分析の実施において必要な統計学の基本的な性質や考え方を理解し、統計ソフトを用いたデータ分析の統計手法を学ぶことを主な目標とした。基本的な統計解析についてグループで調べ発表とディスカッション形式で一部展開した。既存の演習データを用いて、単変量解析および回帰分析について統計ソフトの実践演習も実施した。今後は、ディスカッションがより活発になるような授業内容・環境の構築が必要である。

【看護科学コース(看護教育・研究者プログラム)】

1. 教育方針

本プログラムは、本年度に開講した。看護基礎教育や院内教育、看護実践における課題を科学的に探求する能力、エビデンスを創出する基礎的研究能力を備え、看護学の発展と人々の健康に貢献できる看護教育・研究者の育成を目指している。

2. 科目名

1) 看護理論 1 年次前期

(1) 担当教員

高橋智子、松山友子

(2) 教育内容

看護学の発展の中で、看護理論がどのような経緯で開発されてきたかを概観し、看護理論を評価する枠組みを用いて主要な看護理論の特徴と限界について検討した。また、自らの経験と照らし合わせて看護実践・教育・研究における看護理論の適用と課題について、院生によるプレゼンテーションを実施し、レポートにまとめた。次年度は理論評価、事例の精選を行い、プレゼンテーション内容を吟味し、内容の充実を図ることを課題としたい。

2) 看護教育学特論Ⅰ 1 年次前期

(1) 担当教員

上國料美香

(2) 教育内容

看護職者が教育的機能を果たす基盤となる教育学、看護教育学の知識の修得を目的とし、課題図書 of 購読と学習の成果の発表、討議を中心とする演習形式の授業を行った。学生は、学習内容と看護実践者、看護管理者それぞれの経験を照らし合わせて理解を深めることができた。次年度は、学生が、課題図書の理解に直結するような目的的な討議ができるよう課題の提出を工夫した授業を展開したい。

3) 看護教育学特論Ⅱ 1 年次後期

(1) 担当教員

上國料美香

(2) 教育内容

カリキュラム編成・運用に関する基礎的知識の修得を目的とし、課題図書の購読と学習の成果の発表、討議を中心とする演習形式の授業を行った。学生は、カリキュラム編成・運用に関する基礎的知識を段階的に学習するとともに、高等教育の質保障システムや看護基礎教育課程の実際

の分析に取り組んだ。また、当該科目を通して学習した知識を基に、看護教育学演習Ⅰ・Ⅱに取り組んだ。次年度は、より演習と直結した授業を展開したい。

4) 看護教育学特論Ⅲ 1 年次後期

(1) 担当教員

上國料美香

(2) 教育内容

看護教育学研究に取り組むために必要な基礎的知識の修得を目的とし、学術論文の講読とクリティック、課題学習の成果の発表、討議を中心とする演習形式の授業を行った。学生は、看護教育学研究の基礎的概念、代表的な研究方法論、論文の構成を学習するとともに、自己の研究課題への示唆を得ることができた。次年度は、学習成果を研究課題とともに看護基礎・卒後・継続教育に活用する意義の検討も含めた授業を展開したい。

5) 看護教育学演習Ⅰ 1 年次前期

(1) 担当教員

上國料美香

(2) 教育内容

カリキュラムの編成・運用に関する基礎的知識の修得を目的とし、統合カリキュラムの編成に関わる講義と課題学習、学習成果の発表、ディスカッションを組み合わせた演習形式の授業を行った。学生は、仮設大学の新設を計画し、設置場所や大学の理念等を検討、統合カリキュラムの編成に取り組んだ。次年度も、学生の能動的学修を主軸とする授業を展開したい。

6) 看護教育学演習Ⅱ 1 年次後期

(1) 担当教員

上國料美香

(2) 教育内容

カリキュラムの編成・運用に関する基礎的知識の修得を目的とし、課題学習と学習成果の発表、ディスカッションを組み合わせた演習形式の授業を行った。学生は、看護教育学演習Ⅰの学習成果に基づき仮設大学のカリキュラム立案とシラバス作成・洗練に取り組んだ。次年度も、学生が既習知識を応用しながら能力を修得できるよう能動的学修を主軸とする授業を展開したい。

7) 看護教育学特別研究 1 年次後期

(1) 担当教員

上國料美香

(2) 教育内容

看護学領域の研究への理解と自己の研究課題への示唆を得ることを目的とし、学術論文(英語)の講読とクリティックを中心とする演習形式の授業を行った。学生は、看護研究に対する代表的な研究方法や理論、概念、用語について理解を深めつつある。また、諸外国の医療・看護の実際に視野を広げる機会となっている。次年度も、学生が看護学研究やその知見および研究方法への理解を深めることにつながる授業を展開したい。

8) 特別研究 1・2 年次通年

(1) 担当教員

上國料美香

(2) 教育内容

修士論文作成を目的とし、ゼミナール形式の授業を行った。また、セメスター毎に発表会を開催した。学生は、文献検討、研究課題の明確化、研究計画の立案まで研究を進めることができた。また、複数教員から指導を受け、研究課題に対する理解を深めるとともに、学術的コミュニケーション

を展開する力を養うことができた。次年度は 学生が特別研究論文をまとめ上げ基礎的研究能力を修得できるよう授業を展開したい。

9) 保健統計学 1 年次後期

(1) 担当教員 浦中桂一、原口昌宏

(2) 教育内容

研究論文の講読や分析の実施において必要な統計学の基本的な性質や考え方を理解し、統計ソフトを用いたデータ分析の統計手法を学ぶことを主な目標とした。基本的な統計解析についてグループで調べ発表とディスカッション形式で一部展開した。既存の演習データを用いて、単変量解析および回帰分析について統計ソフトの実践演習も実施した。今後は、ディスカッションがより活発になるような授業内容・環境の構築が必要である。

10) 医療倫理特論 1 年次前期

(1) 担当教員 手島恵

(2) 教育内容

高度実践看護を提供する際に求められる倫理的実践の基盤として必要な知識を概説した。また、各コースの看護職が実践を行う中で直面した特徴的な事例を取り上げ、臨床倫理の 4 分割法等の理論を援用しながら検討・考察を行った。その上で、各自が実践の際に直面した倫理的課題を事例としてまとめ、コースごと的小グループで当事者や患者にとって最善の方策について検討し発表・共有を行った。次年度は各コースの専門的視点を活かした検討ができるよう工夫したい。

11) 看護政策特論 1 年次後期

(1) 担当教員 金子あけみ

(2) 教育内容

看護を取り巻く課題について明確にし、課題解決に向けた制度・政策プロセスについて学ぶことを目的としている。学生はこれまで臨床での経験しかいないため、臨床経験から政策課題・問題点を抽出させることから始め、プログラム評価の観点から政策化するために必要な情報収集及び整理、論理の構築について教授した。次年度も学生の能力、経験等を踏まえた上で、実践知に結び付けられるよう教育内容・方法を吟味していきたい。

12) 研究特論 1 年次前期

(1) 担当教員

手島 恵、小野孝二、田中留伊、竹内朋子、上國料美香、浦中桂一、小宇田智子大島久二、小野孝二、田中留伊、竹内朋子、朝澤恭子、浦中桂一、小宇田智子、高橋聡明

(2) 教育内容

看護研究における初歩的な研究テーマの設定法、データ収集法、解析法、倫理上の配慮などについて具体例を示しながら解説した。本来の研究はどういうものであるかを教授し、また、研究成果を学会あるいは学術誌に発表するためのプレゼンテーションおよび論文作成に関する基本的な手法について習得できた。

【博士課程】

1. 教育方針

看護学のさらなる進化および看護の一層の質の向上に「貢献できる教育研究者」を養成することを目的とする。看護、看護学の発展のためには、EBN に基づいた研究活動、教育活動、実践活動が必要である。博士論文の制作を通して、教育研究者として、エビデンスを「つくり」「つたえ」「つかう」プロセスを理解し、それぞれのプロセスにおいて積極的に取り組み、看護界が抱える課題を的確に抽出し、解決していくことができる能力を醸成する。

2. 科目

1) 精神保健学:1 年次通年

(1) 担当教員 田中留伊、森千鶴

(2) 教育内容

精神保健に関する文献検討やゼミナールを通して、人間の精神の健康について多角的にとらえ、独創的な研究課題に取り組むために必要な知識を身につけるとともに、研究技法についてクリティックを行った。また、特定の課題について、プレゼンテーションを行い、ディスカッションを行った。

2) 精神看護学:1 年次通年

(1) 担当教員 森千鶴、田中留伊

(2) 教育内容

精神看護学に関する文献検討やゼミナールを通して、精神の健康と障害を多角的にとらえ、独創的な研究課題に取り組むために必要な知識を身につけるとともに、研究技法についてクリティックを行った。また、特定の課題について、プレゼンテーションを行い、ディスカッションを行った。

3) 特別研究Ⅰ：1 年次通年

(1) 担当教員 田中留伊、竹内朋子、森千鶴、その他指導教員

(2) 教育内容

研究課題領域に関する文献検討やゼミナールを通して、研究課題を明確化し、具体的な研究計画を立案した。セメスターごとに中間発表会を開催し、研究テーマに関するレビューや研究計画について発表し、ディスカッションを通して研究内容を吟味した。次年度は、倫理審査を通し、研究計画を実施できるように勧めていく予定である。